

活動を拘束し。諸市は千六百年以降領域内に新生活を開拓せざる可らざるに至れり。

都市の對外關係既に此の如し、その向内競争に於ても亦都市は概して法律を宣し仲裁を爲すべき主管権力を缺けり。單に一地方的都市君主即ち例へば僧正はその力以て貴族と手工組合との間に正當なる仲裁を下すに足らず。千二百年より千四百五十年に至るの間、市會を獨占せる貴族は漸次に排他的の身分階級をなし、手工業を營めるものは所謂手工組合を組織し以て一權力となりし後、主として千三百年乃至千四百五十年の間に手工組合革命の時期を劃せり。手工組合革命の導火線となりたるものは一に貴族諸黨派相互間の商業なり、二に中産階級及び貧民階級が秘密主義及び財政的加重負擔を以て益租税と責務を誅求せられたることなり、三に組合法に關する幾多小争點(服地小賣、相場決定のことを市會にてなすべきか若しくは組合にてなすべきか)の外殊に組合の獨立警察權及び獨立裁判權の問題なり、而して四に青年貴族の個々濫用(貴族に勘定書を呈示せる手工を答てるが如きこれ)なり、手工組合の目的は市會に議席を有する

か然らずんば市會と別に特別議會を設け或る種の事項に就き討議するの權能を得んとするに在り。手工組合は主として南西部に於てはその目的を達し、時に流血現象を呈せることも亦これなきにあらず。よし伊太利の状態に比すれば勿論緩和なりしも、尙ほ市會議員の斬首及び放逐、次では又手工組合首領の斬首及び放逐の慘劇もなかりしにあらず。これ等競争に伴て都市組織上正當にして且つ合理的なる交譲を效し、都市行政の改善せられたるもの尠からず。然れども屢社會的の革命ありて都市の權力を危機に瀕せしめ、商業工業の盛運も亦これが爲めに攪亂せられ破壊せられたることなきにあらず。一時的には社會的の平和締結に依りて再びこの危険を排除したり。獨逸の諸市は富及び文化に於て恐らく第十六世紀に及ぶまで増進を效せるが、大體に於て社會競争の間に交譲關係を裁定したるものは寧ろ偶然の一次的權力にして遠大なる洞察と正義とに俟てゐるにあらず。而して千三百八十年乃至千五百年の間或る貴族黨の反動と都市組織上及び行政上の幾分の改革とありて著名都市に於ける手工組合政治の最も甚しき缺點を排除したる後、千五百年乃至千七百年の間に都市の内的組織は衰運

に急轉せり。手工組合政治の存續せる場合には下司根性を遺憾なく曝露し、所謂名譽を重んぜざるものが權力を掌握したる處には愈以て狹量吝嗇なる寡頭政治を示したり。

所謂手工組合革命の全時代は概して一大階級競争の時代にあらざして、工業を營める中流階級が權勢を得て市會に議席を占め幾分都市行政上の濫用を撤去せんことを要求したる時代なり。貴族にも手工業者にも富豪あり、教會、財産、労働組織に關して抱懷せる意見は原理上に何等の齟齬する所なし。手工組合に屬せるもの多くは、嘗て手工組合が貴族政治に對して不平を懷けるが如く、千三百五十年乃至千五百年の間に利己主義的の手工組合政治を非議せり。若し獨逸に於て國權發達して以て貴族と手工業者とを調停し而して一層遠大なる目的の爲めに努力せしめ得たりしならんには、數世紀間に亘れる都市の沈滞は恐らく妨止せられたりしならん。都市が千四百年乃至千七百年の間に領域國家の貴族政治に參したるが爲めに幾分改善の實を擧げたるの例は隨處にこれあり而して總じてこれを觀れば最も進歩的なりし聯邦即ちプロイセンが千七百年乃

至千八百年の間に寡頭政的都市行政積年の弊(原文アウギアスシニタルは希臘神話に在り、エリス王アウギアス三千頭の牛を飼養しその廐舎は三十年間毫も掃除せられたることなかりしが、英雄ヘラクレスは一日にしてこれを掃除せり、ヘラクレス勳業の一なり、等閑放任の結果は非常の無秩序を現出しこれを秩序せんが爲めには容易ならざる労働を要するに至ることを意義す—譯者云)を一掃し、秩序及び名譽を回復し、而してこの基礎の上にシニタインをして千八百〇八年の都市秩序を遂行せしめたるに至るまで獨逸都市の状態は悲觀せざるを得ざりき。

近世社會主義者の煽動に依りて賤民的階級競争に膨大せる手工職人運動は、千三百年乃至千六百年の間に職人組合を一般に承認せしめ、個々賃銀要求は爲に是認せられたるが、これ寧ろ同一階級内部の老年者及び青年者の間に於ける爭議にして、労働時間の巨細問題に關し、食物の良否に關し、飲酒及び貶黜に關し、儀式及び合同法に關せるものなり。既婚職人は大體に於て原則として職人組合に加入を拒まれたるや論なし。吾人は殆んどこれと同一理を以て普通學

校生徒及び大學生の結合に關する爭議をも階級競争と稱することを得べし。これと異なり既婚賃銀労働者階級が一階級として發達せること例へば織布工、鹽坑夫及び鑛夫の如き場合に限りて、こゝに始めてその組合は階級競争を醸成すべき一要素となれるなり。

二百四十九

第十九世紀に及ぶまでの近世階級史、王政及び地方貴族、騎士階級及び農民。千四百年以降の時代は舊法律形式及び經濟形式の解體を以てその特色となす。即ち羅馬教會は墮落し、封建制度(領地經濟、騎士勤務、封土制度、世襲封土官職)は何處にこれを觀察するも最早その役目を果すべき能力あらず。貨幣經濟、商業、都市工業は發達し、信用は行き渡りて舊狀態と舊形式とを解體せしめ、人口は劇増し舊經濟組織を以てこれを收容す可らず。舊法律舊慣習は何處にも新時代の事情に適應せざるなり。人道主義、哲學の復興及び自然科學、個人主義及び國民主義は急進し推移し、新理想を宣傳せんと欲せり。國內軋轢(都市と田舎との間、貴族と手工業者との間、地主と農民との間)及び對外競争(諸領域國の間、次では又諸國家の間)は、領土擴張の爲め販路、世界商

業及び殖民地領有の爲に益以て國家統治權の強固を必要となせり。新時代のこの要求と應ぜんが爲めに差當りは(千三百九十年乃至千六百年の間)複雑なる都市組織に訴へ、幾ならずして又(千四百年乃至千八百年の間)新侯國發達に俟たんとせり。伊太利のタイラント、家長制的貴族的獨逸諸侯、アラゴーナの「フェルディナンド」、埃地利及び西班牙に於ける「ハプスブルグ」家、英蘭の「チャードル」家及び「クロムウェル」。和蘭の「オラニエ」家、佛蘭西の「ルイ」十一世より「ルイ」十四世に至るまでの諸王、カールデナル及び大臣、其後に至りては「ブランデンブルグプロイセン」の「ホーヘンツォルレルン」家は、その強大君主權と貨幣租稅及び公債と、その官僚、陸海軍及び隸屬殖民地とに依りて以て新たに領域國家及び國民國家を建設せり(本譯補の第一冊 三十九、第三冊 一〇六を參照あれ)。この時代は所謂重商主義、啓蒙專制主義の時代なり、始めて二百萬乃至二千五百萬の人口を有する大國家を一經濟體となし、この經濟體に、國內交通、分業、警察、諸經濟制度に依りて以て、嘗て都市及び都市領域にのみ可能なりしが如き一致調和狀態を實現せんことに腐心せる時期なり。教會、封建貴族及び都市寡頭政治に對し、濫

用及び階級支配に對する國家權力の抗爭干渉は則ちこれが結果なり、當時に於ける有能且つ強大の諸侯及び大臣は概して市民及び農民の爲めに謀りたるものなれども、其間に凡庸の大臣及び諸侯も亦これなきにあらず。剩へ治者獨りその治國の目的を追求すると能はず。貴族階級の組織に應じ、外敵の壓迫に従ひ、國家版圖の大小に準じて、それぞれ啓蒙侯國はその社會政策の遂行を妨止せられたり。既に有爲なる國家官僚の發達せるものあるか否か、自然物經濟及び官有地經濟尙ほ廣く行はるか否か、貨幣經濟の發展及び新社會階級の分化が急潮なるか將た緩漫なるかに従ひ、大體に於て一致せる總傾向の社會的結果に雲泥の差異を示せるは吾人の觀察する所なり。

極めて狹隘なる國家領域の場合には君主の權力は敢て政治上及び社會上の改革に出でんとするの心なく且つ改革を施し得べきの可能尠なし。かゝる國家に於ては軍隊及び官僚は徒らに加重負擔となり、たゞ單に富と不均衡の租稅負擔を増すのみ。その制度は屢領主的封建的にして概して中世的なることを出でず、狹隘國家に於ける社會階級分化が大人口を有し經濟上に高尚なる形式を發展せ

る大國家に於けるが如く劇烈ならざるは言ふまでもなくその長所なり。かゝる領域に大農民戰爭の勃發したる事實に關しては吾人これを後段に論述すべし。凡そ小國家制の國土、伊太利、シウイツ、獨逸の大半は、千八百年然り殆んど千八百五十年に至るまで國民經濟上に停滯し、而して半面には社會的階級分化の慘劇を免かれたり。

千四百年乃至千八百年の反對現象は貴族的組織と君主の絶對主義と是れなり、前者は封建的階級支配を意義し、後者は即ちこれに反對せる競争なり。されども若し千三百年乃至千五百年の間貴族及び貴族的國家組織の勃興を以て一進歩と認めざるが如きは全然謬見なるべし。貴族及び貴族組合にして單に上流階級のみを含み、僧侶、貴族、市長、除外例として例へばチロールに於けるが如く農民代表者を總括せる限り、これが合同商議は諸濫用の弊を矯正すべきの力なり、國家の利益を促進し、幾分國民を代表し(當時にありてはこれ以上の代表機關を期すること能はざりき)、多少國家内の諸地方を連絡發達せしめんとするの習慣を醸成したり。貴族の封建的及び其他の階級利己主義は自然隨處に免かる

可らざるの現象なりき。而して諸侯及び官僚の力が微弱且つ無能なりし場合に殊に甚しかりき。就中東部及び北部にこの現象多く、即ちシウエーデン、デネマルク、ポーレン、ボエーメン、ウンガルの千四百八十年乃至千五百二十年の間に於けるが如き、此獨逸の領域團體の千五百五十年乃至千六百六十年の間に於けるが如き皆然り。反之英蘭、西班牙、佛蘭西、奥地利にありては千五百年乃至千六百年の間貴族の權勢は殆んど擧げて國王の權力に依りて排除せられ。和蘭に於ては千六百年乃至千六百五十年の間商人貴族に對してオラニエン家は尙ほ少なくとも主權を維持したるが、其後に至りては、恰かも英蘭に於てディクタトールクロムウエルの後、主として千六百八十九年以降議會貴族の大權勢の爲めに王政が蹂躪せられたるが如く、和蘭にありても亦商人貴族の專制支配を現出せり。

王政強固にして貴族の權勢と從て又貴族の階級支配とを排除し若しくは驅逐したる場合には、果して王政が政治の目的として正當に中産階級及び貧民階級の向上を計りたるか、而して能くこれと爾他の必要目的たる國家權力、軍隊組

織、官僚組織、財政、殖民政策と矛盾なからしむるを得たるかの大疑問あり。租税及び財政手段の發達は屢至難事に屬し、これが爲めに例へば佛蘭西に於けるが如き屢時の國家破産及び極端なる租税負擔は曩時封建的階級壓迫の場合にも勝りて沈淪状態に陥らしめたり。第十八世紀及び第十九世紀に於ける露西亞の状態も亦これに類せり。近世流の諸侯は伊太利にありては餘りに美術に腐心し、奥地利西班牙にありては餘りに舊教教會に偏し、佛蘭西にありては餘りに宮廷の華奢と贅澤とに流れ、依て社會政策上に眞に嘉みすべき施設に出でざりき。もとより佛蘭西に「サリ」及び「コルベール」ありて常に社會上に良政を施き、英蘭には「チードル」家あり又「グロムウエル」ありて社會政策上に觀るべきものあり、ブランデンブルグ「プロイセン」に於ては千六百四十年乃至千七百八十六年の統治者、奥地利に於ては「マリアテレジア」及び「ヨゼフ二世」、多くの小國家に於ては第十八世紀の個々の諸侯及び大臣は國內の良社會政策と所謂重商主義及び幾分は遠大敢爲なる對外政策とを併せ行へるものなり。

これを希臘の潛主政治と比較するに、啓蒙專制政治は確實なる世襲君主制的

基礎と全然別種の統治持続性とを備へ。これを羅馬の統監政(プリンチパト)と比較すればその成績優良にして且つ持続的なる特色あり。蓋し啓蒙專制政治は古代のその如く野蠻暴戾なる傭兵の難なく、その地盤も亦古代に於けるが如く數百年間の階級競争に依りて蠱毒せられず、單に貴族の幾分專斷なる階級統治を撤廢し而して國民を啓導して貨幣經濟資本經濟及び信用經濟の發展段階に進ましめられたるなり。

啓蒙專制政治の缺點はその家長制的起源と幾分既に頽廢せる教會思想及び社會思想を加味せると、而して市民の政治的自由及び參政權に對する思想の缺乏とに在り。國家の行政的活動、一切生活領域殊に經濟生活に對する國家の干渉はあらゆる場合に増進し、爲めに忽ち健全なる國家活動の範圍を脱せんとするの危険を冒せり。所謂重商主義は不當にも市場、相場將た社會關係を秩序すべき絶對的能力ありと妄信したり。即ち重商主義はありとあらざる事項に干渉し、國民の自動的活動をして餘地なからしめたり。貧民階級は殊に政府が彼等の爲めに活動せる場合若しくは幾分それが原因にてやゝもすれば惰慢に流れたり。

過ぎたるはそれ猶ほ及ばざるが如きか。

啓蒙專制主義は餘りに屢悉く國民の爲めにし、毫も國民自らをして爲さしめずてふ立脚點をとれり。その傾聽する所のものは地主、商人及び製造業者、新銀行家の主張にして、寧ろ細民の聲にあらず。その企圖せる國民經濟的進歩は差當り此等少數上流階級に左右せられたるの觀あり。而して此等富豪階級の倨傲にして賤民を侮蔑すること千五百五十年乃至千七百五十年の如きは未だ嘗てこれあらず。文學及び美術も亦た單に上流階級の餘業のみ。社會民衆が一般に生計文化將た富の點に就て沈淪せるか及びこの沈淪現象が如何に屢起れるかは上流階級の殆んど全く顧みざる所なり。民衆の貧困は概して高尚文明に必然の土臺と觀ぜられたるが如し。言ふまでもなく貧民階級は多くその運命に不平を起さず且つ不平を起すべき智慧もなく、たゞその日の困乏生計と仕事との爲めに營々たるのみ。國民學校、出版、文學は社會民衆の享受する所とならず。僅かに教會ありて貧困民衆と接觸するの機會を與へたれども、教會と雖も屢墮落して單に富裕階級の權勢を行ふ爲めの一機關となり了れり。

當代社會の一般的特色は此の如し。其特殊的特色は則ち第十九世紀の前半期に至るまで工業商業及び貨幣經濟が如何に發達し而してこの増進發達が如何に所謂重商主義の主題と觀ぜられたるにも拘らず、尙ほ諸國概して千八百年然り千八百五十年に及ぶまで主として農業的なりしこと是れなり。人口の七〇乃至九〇プロツェントは農業を營み、田舎若しくは農業都市に居住せり(本譯補の第三冊 **九十八** 參照)。從て至時期に亘れる社會的基礎は、中世時代の農業的自然物經濟的組織附その土地分配その經營秩序その勞働組織が果して維持せられたるか若しくは如何なる程度まで變化を蒙れるか、封建貴族、農民、農業日雇人が相互に如何なる關係をなしそれの地位が如何に變動せるか、貨幣經濟の發達將た必然的に促されたる周約的良經營法が如何なる社會的變動を伴へるか、農業を營める總中流階級及び貧民階級が如何に精神的及び技術經濟的進歩を效せるか、自由土地財産、自由勞働、貨幣經濟、信用、販路變動はこれに參加し關係せるそれぞれ階級より利用せられたるか否か而して其間に如何なる階級が沈淪せるか若しくは向上せるかに在り。千五百年乃至千八百五十年の間、社會

の大問題は農民問題なりき。社會競争は農民保護及び農民開放を焦點とし、農民動亂及び農民競争はこの競争の高潮なりき。政府及び貴族の社會政策の中心點は、一に領有地の擴張若しくは制限なり、二に土地所有農民の保護若しくはこれに代ふるに大小借他人を以てすること、三に新勞働關係の設定、四に大農業法、交替制、良土地分配等に依り近世企業精神に順應せる貨幣經濟的農業組織の新秩序を制定することに在りて存せり。

こゝに問題となれる總現象は畢竟本譯補の第四冊 **百二十六** に取扱へる近世土地財産分配の問題及び本譯補第七冊 **二百三十五** に論議せる近世土地財産分配の所得分配に及ぼせる影響の問題と同一なり。これが變動の結果に就ては吾人既に本譯補の第五冊 **百六十九** 貨幣經濟論、第五冊 **二百〇九** 貨銀の歴史、第六冊 **二百十二** 貨銀變動史の説明に於て關説したり。これが詳論は農業政策に關する特別研究に俟たざる可らざるべし。こゝにはたゞ階級史的總結果を略説し得るまでなり。

伊太利殊にその北部及び中部に於ては第十二世紀乃至第十五世紀の間に既に

封建農業的組織は貨幣經濟の發達の爲めに解體せり。當時既に土地は殆んど自由財産となり、農民は準借地人及び貨幣借地人となれり、これ國民經濟の發達止まざりし限り好影響を齎せり。然るに其後進歩は停滞し、土地財産は殆んど全く教會に歸し、都市に生活せる貴族將た都市の資本家の所有となれり。かくて土地動産化の結果は、やゝ大なる借地は極貧日雇人を使役し、而して土地耕作は淪沈状態に陥り徒らに利益を壟斷せられたる準小作人の勞働を俟つに至りこの準小作人は伊太利農業社會の特色をなせり。農民の爲めに劃策せる所の政府の妥當なる政策も僅かに個々のこれを認むべきのみ、例へばトスカリーナのレオポルド二世の政策の如きあるに過ぎず。貨幣經濟信用經濟及び資本經濟は一言ふまでもなく外人支配并に千五百八十六年乃至千八百〇六年の一般的國民經濟停滞と相俟て以て伊太利に於てたゞ社會組織を解體せしめ社會關係を破壊せしめたる以外に毫も結果なかりき。

愛蘭にありてはこれと反對の原因に基き、即ち封建制以前の所謂族黨クラン經濟の餘りに後代に至るまで存續せるが爲めに、伊太利に於けると大體に同様

なれども或は更に不祥なる社會状態を生じたり。久しく名目上には英蘭の支配あり、又夙に多數のノルマン英蘭貴族の侵入ありたるにも拘らず、愛蘭の農業組織は第十六世紀の間尙ほ殆んど全く幼稚なる族黨財産の形式を失はざりき。愛蘭には百以上のクランありてそれぞれ野蠻なる會長に指揮せられて常に相闘争し、この會長は族黨に屬する者各自より多くの貢物を徵集し、それぞれに小地積を分配し、最良地は則ち會長自身并にその臣僚に收めたり。これ何等の發展進歩を齎らすに縁なき野蠻状態なりしも、尙ほ窓もなき陋窩に住し牧畜を營める貧困愛蘭人を満足せしめたり。かくて愛蘭人はその會長と同一名稱を唱へ、クランの財産、牧場及び湖沼を共有せり。「ヘンリー八世」、「エリサベス」、「イヤコップ」一世及び「クロムウェル」は、始めは善意にて後には常に強行的に、近世的發展を遂げたる英蘭の土地財産形式を以て愛蘭社會を救済せんと欲し、同時にこの半開民に對し遙かに彼等に適應したる舊教を廢して英蘭國教を強制せんと欲したり。「クロムウェル」は遂に全愛蘭種族を「コンノートの山地に移せり、數百年間に亘れる流血現象、英蘭教會に對する愛蘭土地三分の二の沒收、放棄、投賣、國

教信徒、英蘭の新教貴族、クロムウェルの征愛蘭軍隊等はこれか結果なり。第十世紀の外観的静謐時代に於て愛蘭の貧困農民は英蘭支配の羈絆を忍び、其間に益その人口を増加し、英蘭貴族をその會長の後継者と信じてこれに借地料を拂ひ、而してクラン財産の共同所有者とのみ思ひたるが、英蘭法律は何時にても破棄するを得べき普通借地關係と見做し、高利貸的中間借地人ありて實際ロンドンに生活せる英蘭貴族の收むる所に二倍乃至四倍せる借地料を食られたり。これと同時に第十八世紀の間英蘭は英蘭の重商主義的利己主義を以て愛蘭の工業及び商業を撲滅したり。かくの如くして馬鈴薯を常食とせるこの愛蘭賤民を向上進歩せしむべき自由經濟的隆興なく妥當なる君主の農業政策もあらず、(愛蘭人口は漸次に増加し千七百年に一百万、千八百年に五百万、千八百四十一年に八百万に上れり、以て第十八世紀四十年代の饑饉及び革命となり、次で農民殺戮となり六十年代の愛蘭共和黨運動となりて漸く始めて從來状態に變動を生じたり。愛蘭人民の多數國外移住は牧場借地の區域を擴大せしむべきの餘地を作り、千八百七十年來一系列の法律發布ありて借地料引上げを妨止し、小世襲

借地人若しくは所有者に変更せんとするの方針をとれり。然れども今日尙ほ土地所有分配は多少の改善ありたるにも拘らず不健全状態を脱せず、千八百七十年の事實に徴するに土地所有者約一萬二千人に對し小作人の數は六十萬人を越え、その七七二プロセントは年々改約せられ得べき一時的借地人 (tenant at will) なり。千九百〇一年に於て農業經濟の經營數は四十九萬〇三百一、就中八萬強は五エーカー以下のもの、二十一萬六千は十五エーカー以下のものなり。千八百七十年、千八百八十一年、千八百八十五年及び其後に發布せられたる有效なる農業法は遺憾ながら百年乃至それ以上も遲きに失せり。これ等の農業法の精神は第十六世紀乃至第十八世紀のハンノーベル及びプロイセン農民保護法と同様の成果を期待し小借地人の破滅的自由競争を制限し、半開人を變じて近世小農民たらしめんことを企圖したり。當時愛蘭の慘劇を總覽するに、恐らく半ばは階級競争の觀を呈すれども、實際上階級競争と言はんよりは寧ろ宗教上及び人種上の競争なり、外國英蘭支配及び誤れる行政政策なり、頽廢制度に依り全然經濟的進歩を效すべき能力を失へる野蠻民族を撲滅せんとするの過程なり。

或は千六百〇五年乃至千八百二十九年の間に英蘭の執りたり政策を以て、その昔アンソリア王が敵對種族を征服し殺戮しこれを異邦に移したる事跡に比較するものあるも亦不當ならず。

英蘭に於ては貨幣經濟の夙に發展せるが爲めに封建組織は千三百年乃至千五百年の間に解體したり。騎士采色はチードル家統治の下に既に賣買せられ且つ分割せられ、農民の負擔は概して金納制度となり、莊園は解體し、耕地は農民に貸貸せられたり。チードル家殊にエリサベスは農民を保護し、第十六世紀の土地境界劃定埒離にて圍らすことは内地方伯領域にありては恐らく幾分牧場經濟を擴張せしめられたれども、大體に於て農民を障害することなかりき。農民及び都市中産階級は千五百〇六年乃至千七百年の間に多くの騎士采色を購入せり。キング(G. King)の概算に徴すれば千六百八十八年に於て世襲采色を有するもの十八萬人、その年所得は五〇乃至八四磅、借地農民十五萬人、その年所得は四四磅なり。第十七世紀は自由にして富裕なりし英蘭のヨーマン(Yeoman)の最も發達したる時代なり。クロムウェル部下の敬虔剛強なる騎兵は熱狂的新教農民の

兒孫にして、クロムウェルはこれが爲めに愛蘭に於て三萬五千邑の土地を賜與せんと欲したり。千六百四十年乃至五十年の英蘭革命を惹き起したるものは、農民にもあらず賤民にもあらず又爾他の壓迫せられたる階級にもあらず。この革命は議會貴族とステアートの専制政治との間に勃發せる政治的競争なり、而して農民軍及び小市民軍はクロムウェルの下に此革命を平定したるが、その得たる所は「クロムウェル」をして十年任期ディクタートルの職に就かしたる以外にこれあらず。「クロムウェル」の死と共に萬事舊狀に戻り。議會寡頭政治の截然たる優勝權ここに全く堅固となれり。この當時に發し爾後英蘭政治を支配せるトリー及びホウヱグの兩黨は二社會階級にあらずしてたゞ地主貴族黨の二派のみ。即ちトリーは寧ろ小貴族及び國教を基礎とし、ホウヱグは大貴族、都市の利害及び自由主義教會をその根底となせり。

英蘭の小農民及び小借地人の大部分と自己所有の小舎及び四エーカーの土地并に牧場利用權を有せる五十萬の農民とを驅逐せる經濟的革命は主として千七百六十年乃至千八百六十年の時代に當れり。生産物相場の騰貴と周約的農業と

技術的進歩に對する從來細民の無能力とは相俟て以て愈借地區劃を擴張せしめ、この擴張を期せんが爲めに小借地人及び自ら經濟を營める日雇人は驅逐せられ、小土地財産を賣却せるもの多く、現に尙ほ共有地として存せるもの迄も悉く埒を以て圍まれ、かくの如くして凡そ細民の農業經濟は撲滅せられ、細民は新秩序に依り毫も賠償せられず、よし賠償せられたる場合にもそは言ふに足らず。加之千五百年乃至千八百三十年の間小農民の大部分は家内工業を副業となしたるが、この生計補助は工場組織と共に失はれたり。千五百八十九年「エリサベス」の發布したる法律に準ずれば、田舎の小舎は一家族の住居と規定しこれに四エーカーの耕地を與ふべしと命ぜるが、千七百七十五年大借地人及び貴族の大經營起るに及びて撤廢せられたり。自由移住の禁止、貧民制度の不備、貧民税を免かれんが爲めの夥多貧民窟の破壊は愈益社會的變動現象を慘烈ならしめたり。英蘭の田舎は千七百四十年乃至千七百五十年の間にありては尙ほ資産ある勞働者、小舎住民、小農民、比較的廣大采邑を有せる自由民、田舎貴族の諸階級が居住したるに、千八百年乃至千八百六十年の間に、現には屢都市に生活せる少

數貴族及び資本家の別墅の在る處、而して全然無所有無根底にして屢流浪勞働者の形式をとり一ヶ年の間僅かに數ヶ月勞働に従事せる賤民的日雇人群の生活せる處と化せり。これ等賤民勞働者の數は愛蘭賤民の多數がその故郷を捨て、工業都市及び工業地方に蝟集したると共に頓に過剰をなすに至れり。

嘗て「チャードル」家統治の下には農民の爲めに良政策を施行したる英蘭王政は、今やこの由々しき社會變動に對し何等救濟に出づべき力なく且つ恐らくこの社會事情を理解すべき能力もあらず。英蘭政治を左右せる貴族、「トリリ」黨、ホウグ黨、田舎貴族及び資本家はたゞ以て高率の「レント」を貪らんと欲し、多くの國民經濟學者と等しく大借地制及び農民驅逐を以て經濟的進歩を效すべきの手段と信じたり。貧民階級は千八百十五年乃至千八百五十年の間に愈憂慮すべき不隱状態に陥り、而かも「チャーチズム」と雖もそれ自體勞働黨なるにも拘らず平等選舉權以外に救濟の法を理解せず。或は千六百八十八年乃至第十九世紀の英蘭政治を以て階級政治と稱するものあるも亦當然なり。寡頭政的濫用は實に千七百八十九年に至るまで佛蘭西に於けるよりも屢甚しかりき。然れども英蘭の

自由政體は能くこの難を排し、而して貴族黨の首領たる「ピット」、「ハスキントン」、「ピール」、「グラッドストーン」、「ディズレーリ」の如き大政治家ありて能く大政策を實行し、民福を増進し、社會改良を斷行して革命の危険を妨止し、千八百二十四年來漸次に起れる勞働者運動に對して能く必要なる應急策をとりこれに向て必要の讓歩をなすを誤らざりき。

佛蘭西に於ても亦王政及び貨幣經濟の發展は、聖ルイ王(千二百二十六年)より對英戰爭の破裂千三百三十七年に至る迄の間に、自然物租税の一部を金納租税と變じ、農民土地所有に關する惡法を改正したり。而して千三百三十七年乃至千四百二十一年は憂慮すべき戰爭時代なりしが、それに次で再び改變發達ありて「サリ」の農民政治に及びたり。其後「リシェリ」は言ふ迄もなく既に農民の動亂を鎮壓せざる可らざりき。而かも農業狀態は「コルベール」内閣の終りに至る迄は尙ほ耐へ得べき程度なりき。貴族は尙ほ主として田舎に生活し、土地賣買は可なり自由に、農民は既に屢土地を世襲したり。第十七世紀の後半期以降始めて小所有者及び小借地人現はれ、而して國家租税及び國家附課の爲めに壓迫せられて

貧困に陥れり、佛蘭西教會は茫大なる土地を僧正大僧正等に與へ、農民を取扱ふこと中世時代の如く親切ならず。貴族はその十分の九まで田舎及び農民に直接の縁なき莊園貴族となれり。佛蘭西王政はその社會的義務を忘れ、たゞ以て赫々たる侵略政策と放態度なき宮廷生活と而して特權ある貴族の爲めに便宜を計らんとともに日もこれ足らず、かゝる間に千六百八十年乃至千七百五十年の間佛蘭西國民は殆んど飢渴に瀕し、人口は劇減せり。其後千七百五十年乃至千七百八十九年の間事態再び改善せられ、農民は諸州に於て面目を革め、一般にその權利を甚しく無視せらるゝことなく、千七百八十九年には全國土地の三分の一を世襲所有し、借地人、準農民若しくは其の他の關係にて大所有地にも多く均霑したれども、而かも封建組織殊に教會の廣大土地財産が社會一般より嫌惡せられたること未だ佛蘭西に於けるが如きはあらず。若しそれ偉大なる君主若しくは大臣あらば、能く社會の寄生物、特權者、貴族及び教會を支配し、國家破産を免かれ得て革命を妨止し、封建制の負擔を能く劫奪に陥ることなくして撤廢し、第十八世紀に於て比較的自由なる農民階級を發達せしめ得たるべし。而

かもこのこと單に端緒を認むべきのみ、次で大革命に依りて顛覆せられて暴力の横行となり、「ナポレオン」一世に至りて再び法律的に秩序せられたり。佛蘭西革命は毫も嚴密なる意味の階級支配を一掃せず、たゞ羸弱王政とその權力濫用とを特權貴族の軍隊の力に訴へて覆したるまでなり。革命の間農民は西部、中部及び南部佛蘭西に於て大體に靜謐に、北部及び東部佛蘭西のそれは貴族に對して反抗したれども而かもこれ國王の命令なることを教へられ、その一切の負債證書が焼却せられたるを目撃し、屢かくの如き恩惠深き良君主の爲めに起たざるは自ら災に陥るべきを注意せられたるに坐せり。

教會領及び貴族領の沒收は佛蘭西の社會的農業的狀態に過大の變化を來たさざりき。封建制の負擔は撤廢せられたれども、村落組織、小地域借地制、一切貧民及び農業労働者の共有地に對する持分權は依然として變なし、忽ちに大借地制に變じ、夥多の農民及び小舍住民を驅逐したること英蘭の如きは他に類例あらず。現在にありても猶ほ千七百八十九年の當時に於けるが如く、佛蘭西にありては廣大土地財産顯著なれども、その大部分耕地の三分の一乃至二分の一

は小借地制をとれり。且つや二百萬以上の農民は労働者を雇傭せずして自ら耕耘し、而してこれ國民の三分の一に該當せり。殆んど五百萬の農業經營は十ヘクター以下以下の地積を耕耘せざる可らず。この故に佛蘭西は現に無所有労働者の郷土と言はんよりは寧ろ土地を所有し節約以て自ら經營に當れる農民及び細民の國土なり。この社會狀態は大革命の賜にあらず劇烈なりし舊階級の産物にもあらず。實に佛蘭西の歴史、その君主政の結果なり、而して佛蘭西が英國に於けるが如く嘗て決して引き續きて封建貴族若しくは投機的資本主義的農業經營者の爲めに蹂躪せられず、乃ち地代及び大借地制利潤を増徴せんが爲めに村落細民が無所有日雇人の境遇に沈淪することなかりし事情の結果なり。さればにや技術的經濟的進歩は千七百五十年より現在に及ぶまで英蘭の如く活潑なること能はざりき。

千四百年乃至千九百年の獨逸農業發展を規定せる事情は、それが既に千四百年乃至千五百五十年の間に貨幣經濟的資本主義的發展の端を拓き、而かも千五百五十年乃至千七百年の間に經濟狀態停滯し然り幾分退歩して自然物經濟に逆轉

したることなり。南西部即ち最小領域地方及び最も富裕なる中世的發展の地方にありては千二百年乃至千五百年の間に人口劇増し、舊農業組織は分割制に依りて世襲所有と變じ、土地は自由に賣買せられ、大債務は既に千四百五十年に根本的に一掃せられたり。都市に於ても田舎に於ても既に屢無所有者を生じ、小貴族は零落せり。小領主及び地主は租税及びその他の負擔を過度に引き上げ、宗教的動亂はフシートの運動以來田舎に彌漫し、墮落教會に對し騎士及び小諸侯に對する不滿の情は益激昂せり。これに加ふるに今や帝國改革の政治的大運動あり。猶太人に對する負債は既に千四百四十年乃至千五百年の間に屢猶太人放逐の運動となりしが、而かも負債状態を輕減するに至らず。帝國騎士社會は千五百二十二年に、教會領を俗化し騎士及び都市を皇帝直屬となさんとする目的を以て動亂を企てたり。チロルンの森よりアルペン山に至る間の全農民階級は千四百三十二年以來反覆一揆を企て一地方的騷擾をなせり。かくて千五百二十五年には所謂農民戰爭となり、概して諸侯より暴力を以て鎮壓せられ、最も聰明善良なる君主例へばブルツの「ルドウ」ヒ五世及びヘッセンの「フィリップ」

の如きの妥當なる改革に依りて回避せられ若しくは平定せられたり。一般に戰爭の豫期せられたるや既に久し。農民階級は尙ほその古來の力を失はず、且つその地位の沈淪將た虐待を意識せるあり。然らば何が故に彼等はシュワイツ人が塊地利及びブルグンドに對して克ち得たる所のものを享受す可らざりしか。

農民階級の要求は大體に於て妥當なりき。極端主義者例へば一切の負債を廢棄し一切の負擔を撤去せんと欲せるもの「チロル」に於ては一切の都市を破壊せんとしたるものありの如きは姑く別問題とし、農民階級の支指者が要求したる所は政治上には統一帝政を樹立し、農民、都市及び貴族を等しくこれに服従せしめんと欲するに在り。その經濟上に要求せる所は、一に半ば頽廢せる有害制度たる身體財産制度、死亡制度、家畜十分の一税を撤廢すること、二に穀物十分の一税を該税徵集者たる土地貸付者の保管の下に僧侶給與及び共同團體の目的の爲めに轉用すること、三に賣買法に抵觸せざる限り自由狩獵自由漁獲の舊法律并に自由木村輸送の舊法律を復興すること、四に傭役及び負擔の徵發を禁止すること、五に負債を調査しこれを適當の程度に制限すること、六に共同團

體の失へる牧場及び耕地を復舊することなり。極端派は殺戮せられ、僅々數ヶ月の内に農民の殺されたるもの幾千人、斬首せられたるもの、罰金及び土地沒收に問はれたるもの夥しき數に上れり。

農民の要求は社會革命を效すべき計畫なりしがその結果を擧ぐることはざりき。農民の要求の中或るものは嚴密なる意味にて實行不可能なるものなり、例へば三百年前人口尙ほ稀少に貨幣經濟及び信用經濟が未だ發達せざりし以前の村落共同團體を復興せんとするが如きは是れなり。而かも概観して農民はたゞ正當なるものを要求したるに過ぎず、換言すれば其後領城國家の法律及び第十世紀に於ける農業改良に依りて實施せられたる所のものなり。

獨逸の南西部全體は依然として小農民の郷土なりき。バイエルンに於けるが如く貴族が大土地經濟を設定せんが爲めに農民を驅逐せんとする態度に出でたる處にては、政府は高率の備役及び農奴の強制労働を課することに干渉して以て直接若しくは間接にこれを禁止せり。バイエルンにありては概して農民の半數は教會に隸屬し、教會は最早中世時代の如く農業上の進歩を計らず、たゞ在

來の農業組織を維持せんと欲したるのみ。千八百十五年乃至四十年の間南部及び西部獨逸の農民階級の課せられたる必らずしも高率ならざりし封建的負擔、十分の一税及び農民の責務は其後第十九世紀の農民解放立法に依りて撤廢せられ、概して既に世襲所有權を享受せる小農民が全く自由の世襲的財產權を取得したるも亦この立法に俟てり。然り而して千七百八十九年及び千八百五十年の間に個々的には農民の動亂なきにあらざりしも、合理的立法及び良國家行政に依り全然新たなる大體に於て健全なる農民狀態の實現を觀たり。嚴密なる意味の階級競争は則ちこの結果を效すに與からず。

北西部獨逸に於ても亦吾人は毫も農民沈淪の形跡を知らず(ハンノイベル、ブラウンシュワイヒ、ウエスフーレン、オルデンブルク)。固よりニイデルザクセンの地主は第十二世紀の間に隸屬的非世襲的小農民即ち所謂ラーターテンを屢驅逐し、その個々フリーフェを併合して二乃至四フリーフェの借地を制定したるが、これ東部殖民及び都市繁盛の時代に當該農民を餘り不利益の境遇に陥れしむるとなくして可能なりし出來事の觀ありき。而して自由なる大借地農民即ち所謂マイエル

は其後第十六世紀の間に諸侯の権力に依りて租税徴集關係より放逐及び負擔引き上げに對して保護せられ、爲めに漸次に領主の監督の下に相續權を享有せる世襲所有者となり、その舊地主は單に地代收得者となれり。かくの如くして少數ニールザクセンの貴族は廣大土地財産を獲得することを得たるが、備役若しくは其他の負擔を以て農民を壓迫すること能はざりき。ニールザクセン、ウエストフールレンの農民階級は今日に至るまで最も剛強なるもの、それが使役せる日雇人に對しても亦最も健全なる労働組織即ち所謂ホイエルリングスジス

テーム(本譯埔の第六冊 二百〇七)

參照を發展せり。

ハンノーベル、ブラウンシュヴァイヒは千五百年乃至千八百六十六年の間恐らく門閥貴族的組織の郷土なりき。然れども統治貴族及び市民家族は東部に於けるよりも遙かに著しく官職貴族制に變化せり、蓋し門閥貴族の土地經濟が無意義なりし故なり。吾人は主として中部、南部及び西部獨逸の比較的廣大なる領域國家に就て、其門閥貴族的組織なりし限り、千八百年に至るまでの状態は貴族的封建的階級支配と言はんよりは寧ろ諸侯、官僚、記者階級の支配なりしと言

ふも不可あらざるべし。この階級支配は屢餘りに小規模にして家長制的に、大改良を實行し敢爲なる一般的政策を施さんには適當せざりき。乃ち千八百年に至るまでは屢第十六世紀當時の社會状態を維持したり、而かも半面に於て社會抗爭關係を緩和せるも寧ろこれを劇烈ならしめざりし。

東部獨逸、エルベ河以東、後代プロイセン及び東ライン地方、メクレンブルグ、シュヴェーディッシュポメルン、東ホルシュタイン等にそのスラーヴ居住地方に於ては關係これと全く異なれり。これ等の地方にありて、農民階級の狀態は第十世紀若しくは第十九世紀に及ぶまで殆んど全く惡變し、而して一般に諸侯の權力を以て貴族の封建的壓迫に對して農民を保護するに足らざりしに應じて殊に然りとなす。これに加ふるに一般的國民經濟的變遷の影響あり、西部歐羅巴に比し農民階級の技術上精神上の發展幼稚なりし事實も亦これあり。總じて尙ほ幼稚なる純自然物經濟状態に終始せるこの地方に、千五百年以來何れの處にも進歩的周約的經濟の欲望襲來し、水路に依り西部に向け粗生産物販路大擴張の可能を生じたり。然り而して農民階級の大部分殊にスラーヴの農民階級はこ

の發展に應ずべき能力を缺けり。千五百年の頃尙ほ多大數存在したりし騎士階級は未だ西部及び南部獨逸に於けるが如く農業經濟上の自己經營を放棄せず。今や彼等はそれぞれ裁判權、警察權、財政權、教會權を獲得して以てその地方的地位を強固ならしめんことを劃策したり。かくて騎士階級は領地經濟及び騎士經營を發達し(本譯の第三冊 **百〇四** 參照)、而してその一地域、郡區及び領土國家の政府に牛耳を執れるに應じてこのこと愈容易なりき。然れどもこの發達過程は主として大國家例へばプロイセン、墺地利の如きに起り、これ等大國家にありては君主の權は第十七世紀及び殊に第十八世紀に再び優勢となり、從て農民保護政策を實行し、貴族的組織は益々撤廢せられ若しくは無勢力となりたれば、こゝに貴族は議會政治と遠かり大國家を統治すべき特殊能力を失ひ、ただ以て一地方的自治及びその經濟的發展に當ることゝなれり。當時農民は未だ營利心を發達せざりしに此等貴族は既にこの點に先をなし、而かも君主の領土及びその借地人と相並びて農業技術上の支持者となれり、農民のこの發達をなせるは漸く始めて第十九世紀の間に在りとす。

法律上及び經濟上の變遷は主として次の諸點に繫れり。一、從來無意義なりし家畜使用耕作及び手耕作は領地經濟減退して農民經營増加せるに應じ増進發達し、貴族階級法、個々の契約、習慣、土地警察力も亦これに與て方あり。二、隸屬農民の兒孫は始め慣例的に勞働に當り、次では強制的に多年間薄給の勞務に服するに至れり、第十六世紀以降のブランデンブルグ及び墺地利、千六百五十年乃至千七百六十五年のザクセン選舉侯國の如き然り。三、牧畜、木材伐採、漁業及びこれに類する權利は領主經濟の利益を計りて逐次農民及び小舍住民に制限せられたり。四、領主經濟的莊園は第十六世紀以來私法的買収に依りて擴張せられ、農民はこれに依りてその反抗放恣滯金の故若しくは領主の代償提供の要求の故に放逐せられたり。然り農民は代償をも受けず暴力的に放逐せられたり。三十年戰爭の後農民耕地は多く荒涼となり、何等の代償もなく領主に併合せられたり。第十八世紀の間領主經濟は益々改善を加へられてこの併合を要求し、警察及び法律に依りて禁止せられざりし限り千七百八十年乃至千八百四十年の間に農民驅逐過程は最も劇烈なりき。五、農民のその耕地その家屋を

の家畜に對する相續權及び財産權が制限せられたる限り總じてこの農民驅逐現象は急速に進み、何れの地方にも農民の權利を削減し益領主を羅馬法に規定せられたたるが如き農地所有者たらしめんとする傾向盛に、農民の地位を引き下げ單にこれを驅逐自由の隷屬者たらしめんとせり。農民は從來耕地に對し終身權を享受し而してその子供はこれを世襲したる處に於ても屢任意に驅逐せらるるの境遇に下り、遂には若干年間の借地人關係となれり、尤も此一時的借地人が増加したるは第十八世紀末に始めて認めらるゝ現象なること敢て詳説を須たず、千八百〇六年にはプロイセンに於てその割合漸く十分の一、シュウエーデン、ボンメルンにありては既にそれ以上を示せり。六、凡そ此の如き農民境遇の沈淪傾向は人口増加を禁止し、田舎労働者をして夥しく都市に蝟集せしめ若しくは隣接領域に移轉せしむるの結果を招き、而してこれを妨止せんが爲めに農民を土地に固着せしめ即ち換言すれば身體財産若しくは世襲的農民たらしめんとする政策に出で農民階級の結婚將たその手工業に轉職することに對し一々領主の認諾を受くべしと干渉したり。

この農民權利の剝奪過程は東部獨逸に於ては甚しき騷擾動亂を惹き起すこともあらざりき、千五百七十三年のクライン、シュタイエルマルク、ケルンテンに於ける、千五百九十四年乃至九十七年の高墾地利及び低墾地利に於ける、千六百七十九年及び千六百八十年のポエーメンに於ける、千七百九十年乃至千八百年の東部獨逸諸地方例へばザクセン選舉侯國及びシレジエンに於ける場合の如き即ち是れなり。千五百二十五年の農民一揆は絶望的破裂にして大觀念を懷抱せるが故に起りたるにあらず。農民階級は總じて益懶惰愚昧となれり。かくの如くして辛うじて徐々に政府は農民を保護すべき必要を意識し來り、租税及び軍事上の關係より諸侯のこの覺醒は促進せられたり。嘗て第十六世紀に農民保護政策をとりたる舊諸侯に次で第十八世紀に農民を保護せる君主は、「フリードリッヒヴィルヘルム二世及び「フリードリッヒ」大王、「フリードリッヒヴィルヘルム三世」、「マリアテレジア」及び「ヨゼフ二世」、「デネマルク」及び「シュレースウイッヒホルシュタイン」の「フリードリッヒ」六世となす。これ等君主は始めて農民驅逐を絶對に禁止し、苟くも農民階級の權利を制限することを禁止したり（プロイセンは千七百四十九年乃

至千八百〇七年、奥地利は千七百六十九年乃至千八百四十八年、先づ王領に於ける傭役を制限し、王領農民を世襲的とし(プロイセンは千七百七十九年、奥地利は千七百七十七年)、王領を世襲小作せしめ(奥地利は千七百七十六年乃至七十八年、シレーヌウツヒホルンタインは千七百六十五年乃至八十七年)、身體財産制、隷屬強制及び農奴制を廢止し(プロイセンは千八百〇七年、ザクセンは千八百三十二年乃至三十五年)、而して遂に千八百十一年乃至五十年の間に私的農民を代償を拂て自由所有者とならしめんことに劃策したり。

千八百年乃至千八百五十年の間、農民保護の大改革政策が施行せらるゝに當て、自然これに反對せる貴族が屢これと矛盾せる自家利益を貫き愈その領土を擴張し殊に多くの細民を驅逐したるの實例も亦なきにあらず。さりながらこの農民救済及び農民開放は、第十九世紀の後半工業労働者の爲めに劃策せられたる政策の以前に在りては、近世獨逸史上の最大社會改良なりき。而してこれ懶惰なる抗争農民並に多數利己主義的貴族の與からざる所、大體に於て諸侯及び官僚の功業なり。千七百八十九年、千八百三十年、千八百四十八年の革命運動

は恐らく隨處に社會改良の基礎を立て且つこれを促進したりと雖も、總じて改革は嚴密なる意味に於ける階級競争の結果にあらず、又農民の爲めに最も有利なる改良を觀たるは農民の革命的動亂を企てたる處にあらざるものなり。この農民政策の短所はその絶對的に農民のみを眼中に置き、一に農民に自由財産を與へその經濟を向上せしめんことに汲々たりしことに存せり。田舎に於ける小舎住民、日雇人の多大數は千七百五十年乃至千八百五十年の間に夥しく増加したるが、この農民救済の間に管に空手となれるのみならず、この改良と關聯して共有地持分權、牧場權を失ひ加之幾多の所有權を失へり。この大社會改革の後これ等賤民は、よし英蘭に於けるが如く虐待せられ沈淪せることなかりしも、少なくとも改革以前より更に急地に陥れり。

尙ほプロイレン及び露西亞に於けるこれと同様の社會的變動に關して數言陳述せざる可らず。露西亞に於ける農民窮迫の現象は根本的に第十九世紀にあれども而かもこの關係に屬せり。

プロイレンに於てこゝに述べべき事項は、王權の衰亡、貪慾なる貴族の文明發

達、農民階級の窮乏沈淪が第十六世紀乃至第十八世紀の最も重大なる内的三變動なりしこと是れのみ。これ千七百年乃至千八百十五年の間にポロレンを滅亡せしめたる根本的原因なり。貴族は支離滅裂してたゞ少數の大富豪貴族のみとなり。此等富豪貴族は西歐のあらゆる贅澤と犯罪とに陥り、健全なる共和的貴族政府を樹立すべき能力あらず。軍人系の小貴族は多く極貧にして買収せられ、教育なく政治上及び經濟上の能力毫もこれあらざる状なり。

露西亞に於ても亦(本譯補の第四冊 **百二十六** 及び **百二十七** 参照)尙ほ殆んど野蠻の域を脱せざるも而かも自由なる極めて疎放に土着し漸く三年回期經濟(前掲)に轉ぜんとせる第十四世紀乃至第十六世紀の農民階級は、其後痛く沈淪状態に窘蹙せられたり。露西亞皇帝は第十四世紀の間は尙ほ農民階級を保護したれども、第十五世紀の間に農民は貴族、ポヤロレン(地主貴族)、必要上政府の設定したる御用人に隸屬し、國家の租税は驚く可く増大せり。當時移住の自由認められたりしが故に、農民は小貴族領より去て前貸金を貸與せる大貴族領に轉じ、若しくは其他の方向に逃竄せり。千五百九十七年この移住の自由は法律上には

撤せられざりしも事實上には廢せられて自由農民は農奴となれり。而かも嚴重なる農奴の制は第十五世紀乃至第十六世紀の間には尙ほ殆んど未だ確定せざりき、蓋し土地所有主として平等に且つ餘裕尙ほ存したればなり。租税金、誅求せられ人口も亦増加するに伴ひ千五百九十七年乃至千七百年の間に農業組織は全然一變せり。農民は高率の國家租税の外に領主に對して世襲的に備調の義務を負ひ、千六百四十九年には地主農民間の契約に代ふるに土地原簿及び租税簿に國家的登記をなすべきの制を以てせり。人口稠密の地方に在りては、移民既に不可能となりし限り農民負擔を輕減せんが爲めに回期的に土地分配を改訂したり、而かもこのこと後代第十八世紀及び第十九世紀に至りて始めて個々の施行せられ而して決して一般に實施せられざりき。されば露西亞の共同團體所有は租税壓迫及び農奴的義務より益増大し、爲めに人口増加を促進したれども技術上の進歩は則ち禁止せられたり。第十八世紀の間に農民は悉く農奴となり、地租は「ピクター」大帝より以來人頭税と變じ、地主はこれに對して責に任じ、依て以て地主の権力は非常に増大せり。今や農民は法律上に權利なく經濟上に無所

有となり、地主及び當該共同團體の奴隸と變じ、地主及び共同團體は租税納付の義務を負へるが故に又農民即ち農奴の移住を禁止したり。壓迫益加りたる徴候として千七百六十年に農民一揆の勃發となり、千七百七十四年 Pugnochlefschen に於ては農民戦争の特色を發揮し、千八百五十四年に至るまで反覆止まざりき。改良計畫も亦當時に着手せられ、千八百五十七年乃至六十一年の間に截然たる形式を備ふるに至れり。近世立法は則ち皇帝及び政府の發案に基きたるが、貴族及び大地主の利己主義的利害の爲めに甚しく惡變せられ、爲めにその果して田舎及び農民階級に幸福を齎らし得べきか否か疑はるゝ程となれり。

これが結果は幾百萬人の身體財産を開放したれども共同團體所有と從て共同團體に對する隷屬關係とは依然として撤せられず。殊にその最惡法は農民の享受せる土地持分權に關し地主と農民との間を絶縁し、而して從來負擔より解放せることは是れなり。これが爲めに農民の耕地積は痛く減ぜられ解放せられたる代りに過大の負擔を拂はざる可らず。かくして農民は益貧窮し、家長制的に農民の爲めに配慮し來れる從來地主より離れて共同團體及び富豪農民、共同團體

横領者及び高利貸の下に愈痛く隷屬することゝなれり。今日と雖も農民が共同團體より全然離れんには、必らずその解體資金を納めざる可らず。土地を所有せざる多數の農民が嚴密なる意味の農民と純粹なる労働者とに分化することはそれ自體に必要にして、その土地持分權に依りて何等拘束せらるゝことなかりしも、而かもこの分化現象は最も有害なる方法をとれり。農民の大多數は貧困に陥り債鬼に苦しめられ殆んど元氣を維持すべき生計を立つることすら不可能の境遇となれり。露西亞沃土に於ける農民總數の五〇プロツェントは現に家畜を所有せず若しくは僅かに一匹の家畜を所有せるのみ、農民の七〇プロツェントはその收穫に依りて生活すること能はず、更に二〇プロツェントはその家畜を十分に飼養するの料なき狀なり。家内工業流浪労働工業労働は増加したれども以て此窮乏を補充するに足らず。共同團體より認可せられて此等労働に轉ぜる者はその土地を残留者に賃貸したれども、これが爲めに未だ残留者の生存を安固ならしむること能はざるなり。モスカウ市廳の調査に依れば工業労働者總數の九〇プロツェントは認可せられて農民より轉じたるものなるが、これ決して常態的

工業労働者にあらず(本譯補の第六冊 二百〇四 参照)。政府はその徴集し來れる農民解體金を漸次に益輕減せり。此状態を能く救済し得んには更に大改良を要し、共同團體の所有を撤廢し、尙ほ救済し得べき農民に對し擔保讓渡相續を或る程度に制限して以て確實安固なる土地所有者たらしめざる可らず。舊隸屬的農業組織より近世自由形式に變遷推移するに際して露西亞に於けるが如く多數賤民を生じたる場合は殆んど他にこれを認む可らず。

さてこれより吾人は歐羅巴諸國に亘りてこの農業上の階級發展結果を略説すべし。こゝに豫じめ注意せざる可らざるはこの過程が未だ終りを告げざること、現に農業の工業化するに伴て日々目撃せらるゝことは是れなり。尙ほこれに關して後段に論及すべく。差當り吾人は千五百年乃至第十九世紀の後半期の結果如何を問題とせざる可らず。

一面に於て吾人は或る統一的原因及び結果を認むれども、他面に於ては則ち種々雑多の社會相ありて存し、而かもこれたゞ單に中世以來それぞれ國家に於ける農業組織及び社會組織の相異したる結果のみにあらず。諸國に共通の點を

余は次の如く攝要せんと欲す、曰、封建的中世的自然物經濟的組織附その自足經濟が解體して自由財産制となり、自由労働となり、周約的經營組織を發展し、農業經營を國民的世界經濟的分業の一要素となしたるは、その原因單に資本のみにあらずして貨幣經濟販路經濟交通經濟信用經濟も亦大に與かれり、これを以て新農業組織、農業上の新労働組織並に農民てふ新社會階級の發達なかる可らざりき。而して何れの處に於ても此の新農民階級は工業階級より古く發達し且つ廣大範圍に亘りたるが故に、工業社會及び全社會にも亦影響を及ぼせりと(本譯補の第四冊 百二十六の末段)。

諸國特異の現象は、三社會階級即ち大地主及び借地人、農民、日雇人は多少の別こそあれ何れの國家にも悉く存在したれども、其割合甚しく相異しその經濟上及び技術上の特質も亦痛く相懸隔し、從てそれぞれの社會相は全然相等しからず諸國の田舎及び全社會體貌も亦それに應じ相異なれり。この大變動過程は或る處にては三階級中の一階級を又或る處にては他階級を勃興せしめ若しくは窮乏せしめ、國民總狀態が有利なりしか若しくは不利なりしかの反動、當該

階級の精神上及び經濟上の教育に作用せる一切原因の影響、殊に種々の政治上及び財政上の國家組織——君主制の社會政策若しくは貴族的封建的將た資本主義的階級支配、自由放任主義——凡そ此等組織上政策上の相異はそれぞれ國家の農民状態に種々の特徴を示せり。國家の總經濟發展が益、不利なれば、國家の干渉と救済となくんば農民階級が能く自ら維持し適當の時機に健全に舊組織を脱して新組織に入ることは愈困難なりき、封建的貴族的階級支配は到る處に惡影響を及ぼしたるが(例へば東部獨逸に於ける千五百五十年乃至千七百五十年の状態、又千八百五十年乃至千八百五十年に至るまでの状態の如き)、資本主義的自由發展も亦その惡影響これに劣らず(伊太利、英蘭に於けるが如き是れ)。專制主義的國庫主義は佛蘭西(千六百八十年乃至千七百八十九年)並に露西亞(千五百九十七年乃至千九百年)に於て農民を壓迫したること封建主義よりも慘なるものありき。農民人口の劇増せる場合、例へば千七百年乃至千八百四十年の愛蘭、千七百年乃至千八百六十年の露西亞、千八百十五年乃至六十年の獨逸に於ける如きに當りては、屢農民及び日雇人の地位は爲めに壓迫せられたるが。其人口缺乏も亦

同様の結果に陥り、千五百五十年乃至千八百年の間、到る處に農民の法律上の地位は惡變し農奴の境遇に窘蹙せられたり。田舎人口が劇増したる場合の大問題は、國內殖民が尙可能なるか(千七百十三年乃至千七百八十六年のプロイセンに於けるが如く)國外移住果して多數なるか(千八百四十年來の愛蘭、千八百三十年乃至六十年の南西部獨逸に於けるが如き)、過剰人口が都市及び工業に轉じ得べきか、小耕地制も尙ほ家内工業の發達に依りて生計を維持せしめ得べきか、將た然らずして耕地及び借地の小區劃制は農民をして生計を失ひ飢渴に瀕せしめんか。最後に田舎に留りて賃銀労働に従事せる過剰人口は果して健全なる労働組織に溶し得べきか否か是なり。尙ほ此最後の問題にとりては當該事態が自然の儘に放任せらるゝか若しくは既に政府の遠大なる目的に基ける労働者政策ありて是が救済の端を拓けるかも亦重大事項たり(本譯補の第六冊 **二〇六** 参照)。個々地方に於ける農業社會状態の相異は外的にこれを觀察すれば、現今の主要三階級即ち大地主及び大借地人、中位階級換言すれば借地人、大中小農民、あらゆる種類の農業労働者の間に於ける人口數及び土地所有額の割合如何に緊

かりて存すれども、此等三階級の精神上社會上技術上の特質の相異、經營に關し勞働組織に關する特質の不同も亦少なくともその重要なること前掲の數量的原因に劣らず。

單に土地の一乃至三プロツェントが大地主及び大經營に屬すること例へば南獨逸に於けるが如きと、その四〇乃至七〇プロツェントが大所有大經營に屬すること例へば大英國、東部獨逸、ボヘーメン、ウンガールンに於て多くこれを觀るが如きとは、それぞれ社會狀態に雲泥の相異を生ぜずんばならず。然れども亦その大所有が例へば英蘭の諸地方、シレジエン、ボヘーメンに於けるが如く大部分大富豪に屬するか、或は然らずして例へばボンメルン、ブランデンブルグ、東プロイセンに於けるが如く勤勉なる中所領貴族の有に歸せるか—その何れなるかに從て社會狀態はそれぞれ特色を生ず。尙ほこの外相異を惹き起すべき事情は、この地主貴族が主として田舎に生活し而して自ら經濟運營に當れるか(例へば東部獨逸に於けるが如く)、若しくはその領有地を貸付け自ら遠隔せる處に住せざるか(例へば愛蘭に於けるが如く)、將た又この所有地の大部分が商人的資本主義

的市民の手に歸せるか否か、所有者社會を支配せる習慣及び觀念は果して封建貴族のそれなるか若しくは然らずして成金黨たる市民及び企業家のそれなるか、從てこれ等地主社會が農民及び勞働者に對し、官僚及び軍人社會に對し、自治體及び議會の活動に對して如何なる關係を持せるか等是れなり。曠に富財を積み、農民を驅逐し、取引所投機に没頭し、農民を虐使し暴利を貪れる徒輩は農民及び勞働者の爲めに配慮し、義務の觀念を以て進退せる尊敬すべき愛國的地主とは同日にして談ず可らず。更に又所有の貸付方法も亦社會狀態に著しき相異を伴はずんばならず、例へば英蘭の大部分に於けるが如く、近世的經濟運營法を發展し自ら資本を有せる大中借地人の存する處と、例へば愛蘭、ベルギエン、伊太利の諸部分に於けるが如く、賤民的高利貸的小借地制及び準借地制の行はるゝ處とはそれぞれ社會狀態に霄壤の差あり。

否管にこれのみならず、佛蘭西及び獨逸の大部分に於けるが如く土地總積の四〇乃至八〇プロツェントが大中小農民に屬せる場合に於ても、尙ほその割合如何に從ひ、經濟的技術的及び精神的道德的教育及び文化の發展如何に從ひ、負

債關係如何なるか、農業經濟に副業あるか否かに應じてそれぞれ社會相に著しき相異を來し得べし。愛蘭、伊太利、露西亞に於ける小農民の沈淪せるは、毫もその農民が近世資本、近世信用、近世企業形式の爲めに爾他國土に於けるよりも甚しく壓迫せらるゝが爲めにあらず、職として中小農民の技術的精神的發展の幼稚なるに座せり。かゝる國土に於ては階級組織に訴ふるよりは寧ろ學校及び輪回講師を設けてこれを救濟せざる可らず。我が獨逸にありては五十年來組合制度及び農業教育制度の發達ありて農民の高利將た都市資本の爲めに犠牲に供せらるゝことを救濟し、依て農民は國際競争場裡に不利の地位に立てるにも拘らず能く滅亡の難に陥らず。

田舎の日雇人及び労働者の大階級は概してその人口劇増し、その生計及び賃銀要求に依りて労働者階級全般を支配したり。此の階級が例へば大地主制地方に屢これを觀るが如く最小地積をも所有すること能はざるか、舊制解體の結果として無一物となれるか、若しくは小農民地方に於けるが如くその地位が小農民に匹敵し而して轉じて小農民となれるかは愈以て彼等に重要關係あり。「ハス

パハは近世英蘭の農業組織が宛かも上政府の正當なる權力干渉と等しく如何に全く労働者階級の面目を革新し得たるべきかを説明し。千八百九十二年獨逸社會政策學會の農業研究は「マックスウェーベル」ケルゲル其他、今日舊労働關係の解體したること（インスタン、ホイエルリング、ドレッシュゲルトネルの諸制度―皆既に説明）、新發展形式は極めて種々雑多なり得ること、等しく近世企業流行の下にもそれぞれ労働關係の新形式に應じて田舎労働者階級は全然相異せる發達を效し新たに發展すべきことを論述せり。一切社會階級を通じて技術、市場及び資本の關係よりは寧ろ社會制度を以て重しとなす！このこと今の場合にも亦除外例たらず。

よし上陳の概説は毫もこの最大社會變動に對し統一的説明を與ふるに足らざりしも、尙ほ恐らくこれが眞實なる一體貌を示し得たるべし。上來陳述の示す所は、一に田舎貧困階級は千五百年乃至千八百五十年の間一階級として未だ全く獨立の能力なく、たゞ政府がその治國の義務を果せる場合に限りて主としてその地位に上進ありたるに過ぎざりしこと、二に階級競争はこの發展に何等大

二四〇
 効果を齎らさず貧民より起れる階級競争も亦毫も言ふに足るものなかりしこと、三に近世自由經濟運動が一般にとは言ふ可らざるも個々的には恐らく農民階級の向上を促進し、健全なる社會的農業組織及び土地分配を效すに與て力ありたることは是れなり。

二百五十 第十九世紀に於ける歐洲階級史、市民、工業労働者、社会共産党、其他の階級。吾人が前節に叙述したる農業階級史は、歐洲史上舊貴族的組織衰頹して啓蒙專制主義及び官僚國家の勝利となり、立憲君主政の端を啓ける時代に屬せり。

最近時代主として最近過去半世紀來の歐洲階級史活劇を演じたる國土は、主として絶對君主政を後楯とし、國家及び自治團體に國民代表議會を發展し、而して殆んど何れも近世的權利及び租税の平等、近世的合同、集會及び出版の自由を基礎として強固なる輿論將た顯著なる私的生活を發達したるものなり。よし共和政樹立の聲如何に喧しきものあらんとも、事實は則ち内閣、官僚、軍隊、警察及び裁判權を掌握行使せる國家權力確立し吾人をしてさながら古代の君主

國を回想せしむ。然り而して英蘭、ベルギエン、ノルウェーゲン、伊太利の如き君主國に於ては王權の行使は幾分制限せられ、殆んど共和國と埒別す可らざるが如しと雖も。其他の諸國主として獨逸及び奧匈國の如きにありては、世襲王權儼として存し而して議會及び黨派の上に超然たり。尙ほ殆んど何れの國家にも議會、進歩的黨派、輿論と相並びて、舊政治社會的權力、教會、軍隊、舊結社の一部分あり、殊に官僚あるあり、その黨派及び議會あるにも拘らず慣例に準據して以て國政を料理せること例へば佛蘭西、獨逸、奧地利、露西亞の如き場合に於て最も然りとす。

絶對君主政願れて立憲的若しくは更に一步を進めて議會的君主政が發展し、州縣郡區將た共同團體に對する從來の絶對的干涉を撤して新自由自治政を施くの過程は、英蘭を先驅として殆んど凡ての文明國家に現はれ、これが除外例は極めて少なし。自由主義はこれが爲めに數代間の奮闘を繼續し來れり。國民を政治權力より拒斥することは何れの處に於ても到底維持す可らず、舊官僚獨り政權を專斷せんにはその能力餘りに貧弱となり、而して勃興し來れる中流階級、

富財を蓄積せる企業家階級は邁進して國家政治に參せんことを要求せり。この社會變動の氣運に際し、例へば千八百四十九年に至るまで國政組織上の讓歩を躊躇したる塊地利及びプロイセンの如きに於ては、その結果は不祥の現象を伴へるが。他の方面を觀察するも亦政治生活上のこの大變動は、例へば既に第十八世紀の英蘭に於けるが如く、何れの處にも同様の危險を醸さざる能はざりき。國家行政及び共同團體行政に對する社會の勢力益増大し來りて階級權力頓に著しく、階級支配を現出すべき端をなせり。これ啓蒙專制主義の認容せざりし所たり。市民の自由主義理想の眞髓即ち換言すれば強社會弱國家は、差當り企業家がその意の儘に國政を料理せんと欲するに在りしが、其後に至りては勞働者が國家政治を左右せんことを要求するの意義と化せり。(これ等の問題に關しては「スペイン」及び「グンプロウィッツ」の社會學を併せ看るべし)。

この變動の第一期に於ては、古來の君主政傳説尙ほ存し、政黨は實際上及び經濟上の利害よりは寧ろその政治組織上の理想を目的として爭議し、未だ慘劇を呈するに至らざりき。英蘭に於ては「ホイッグ」及び「トリー」の兩政黨は千八百

六十八年の第二次議會改革に至るまで寧ろ貴族黨たるの面目を維持し、何れも寡頭政治的に内閣を争奪せんことに活動せるのみ。歐洲大陸にありては政權を争奪せんとする社會的要素の旗幟は保守と自由と即ち換言すれば一切國家生活に亘れる自然的反對なりき。當時政争に没せるものは寧ろ國家現狀を辯護するか若しくは寧ろその將來發展の爲めに努力せんとするに在り。國民力を總合協同して以て統一的活動に出づるか若しくは國民それぞれの特色とする發展と自由運動との爲めに活動するか二者の別のみ。或は上より國家を觀察するもの或は下より國家を考慮するもの、而してこの兩傾向は並存し對峙せり。自由國家に於ては苟くも兩黨を要し、何れも或る意味に於て正當なり、前者は一切の大事件を支配し、後者は則ち新事件の發展に當りてこれが爲めに努力せざる可らざるなり。これ當時の状態なり。

然れども自體自然の關係として兩黨派の抽象的政綱の背後には國民的、教育的、社會的及び經濟的利害問題の存するあり、以て所謂兩政黨と結合し、而してその純政治的思想及び理想を看却するに應じ、政黨はさながらに偏頗となり

然り有害となり、乃ち保守黨はたゞ單に大地主にのみ高率の地代を食らしめんとし、自由主義企業家は一に恣まゝに取引利潤を壟斷せんと欲し、急進主義労働者は獨り貧民階級にのみ所有及び所得を歸せんと欲するに及んでその弊害百出豫じめ測り知る可らざるなり。かくの如くして正當なる政治的黨争も時に極端なる階級競争となり、一黨のみ偏頗に黨争に勝を制するに至りては階級支配の危険に陥らざるを保せず。現代の危険正に是れなり。第十九世紀は殆んど文明諸國を通じて君主の権力と保守的勢力とを制限し、國家制度を著しく民制化し、先づ都市市民の勢力を増大せしめ次で工業労働者及び貧民階級の勢力を増大せしめたり。吾人はこの言をなすに躊躇するの要なからん。されども個々國家にとりて、果してこの民制化が那邊まで進めるか、舊權力は如何にこれに反抗したるか、民制化の結果は嘗て存在したりしが如き階級支配を伴ふこと最早これなからんか、否既に古代國家に於て殆んど國家を解體せしめ從て外國支配（即ち國家獨立の喪失）及び軍事統監政治に陥りたるが如きまでに極端に走らざるかは至重の問題たるべし。吾人は遺憾ながらこゝにこの問題に深く立ち入るを

得ず、たゞ現社會發展のこの政治的背景に就て單簡に暗示するに止まる。

現代社會に於ける抗立關係の最も較著なるものは企業家對工業労働者のそれなり。之に關しては吾人既に屢、説明し（本譯補の第四冊百十三乃至百四十七の諸節、第六冊及び第七冊に亘れる二〇二乃至二百二十八の諸節）、數量的統計的にも亦業にこれを把握したり（本譯補の第六冊二百〇三及び第七冊二百三十）。こゝにはたゞこの兩階級の内的性質、心理學、及びその相互影響、その傾向及び爾他階級に對する地位のみに就て説明せんとするに過ぎず。

企業家の世界は自動的活動貴族の最近世形式なり。一切階級の才幹あるもの皆ここに集まり而して殊に投機、商業、取引組織に關する特殊能力を以て其特色となす。猛烈なる活動力、商人的教育、幾分は又技術的知識及發明能力、世界及人間に關する知識、又多くは大所有は是れ此企業家社會が爾他階級と相異せる點なり。企業家は本來自由主義なり而して特に自己活動の自由を要求す。彼等はその事業その感情に強情に、責任ある地位に就くを快とし、近世國民經濟を組織すべき大任務を専念とし、大臣及び官吏、軍人及び學者、封建貴族及び農

民を物ともせず。やゝもすればその労働者を單に手足とし機械的補助力と卑下して怪まず。その企業組織上に於て警察保護法、労働者に對する願慮等より制限せられ拘束せられんと欲せず。居常感ずらく現今世界は企業家に屬せり、企業家は其の貨幣の力を以てよしなさんと欲してならざるなしとまでは行かざるも尙ほ幾多の成功を擧ぐることを得べしと。市民階級(Bourgeoisie)とし言へば則ち其聯想の繋かる所は、卑劣酷薄、唯物主義、傍若無人の利潤欲傾向なり、國家機關、議會、取引所及び印刷物をたゞ單に富を成さんが爲めの手段となし従て又これを買収し得べしとなすの傾向なり。既に、バトクは其當時の英蘭企業家に就て述べて曰、彼等は其所謂聖書を聖書とし、取引所を教會とし貨幣を神と崇むと。個々國土及び國家に是を觀察すればかく墮落せる企業家は精密なる數には差別こそあれ要するに總企業家の僅少部分に過ぎざるや固より言を須たず。その嫌惡すべき特徴の曝露は屢一時好況時代の偶然現象に外ならざりし場合少なからず。さりながらこの嫌惡すべき企業家特色の全然これあらざる場合は何處にもこれが實例を發見する能はず。而して直接企業家に壓迫せられ驅使せらる

るもの即ち労働者は虚聞實傳、この嫌惡すべき特徴を誇大視し個々の誹議に依り且つは誇大風聞に依り益以て實際上に之を痛感するは自然なり。而して企業家が一に社會的に華美を競ひ位階及び爵位を賜はり肥馬輕裘を着け社會的贅澤に依りて世人を眩惑せしめんと欲するに至りてその結果は愈々寒心すべし。議會に樞要の地位を占むる企業家は僅かに少數に過ぎず、從て益彼等は官職及び連絡に依りて議會に勢力を附植せんとす。株式會社、鐵道、保險會社の理事及び支配人にして議會に席を有するもの獨逸にありてはしかく多數ならざれども英蘭、佛蘭西、奧地利に於ては多數を占む。腐敗せる封建貴族の大部分は黄金結婚に依り支配人の地位を授けられなどしてこれが味方となれり。かくて企業家は其の子供及び女婿を有能と無能とに關せず出來得る限り高官に上らしめ閣員に列せしめんとして止まず。企業家が其の結團に依り高俸給を支拂へる結團の總幹事に依り。カルテル及びトラストに依り、幾多新聞紙の創設及び買収に依り。その政黨に對して(殊に北米合衆國に於て)支拂へる大補助金に依り、且つ名士、君主、大臣、黨派首領との個人的關係に依りてその階級支配權を増大せる

や寔とに顯著なるものあり。

然れども企業家は截然識別すべき訓育を備ふる統一階級にはあらず。現に所謂企業家は種々の政黨に屬し、これを獨逸の場合に觀れば保守黨に屬するもの、帝國黨に屬するもの、中央黨に屬するもの、自由黨に屬するもの、進歩黨に屬するものあり。社會政策上の主義に就ても亦彼等の間に雲泥の相異あり。即ち人類主義的實際的社會改良家の如き極端者も彼等の中に在り。獨逸に於ては彼等は屢封建貴族と結合し、その慣習及び思想に倣へり。

近世大工業の労働者も亦上陳企業家と等しく何等特質を備ふる統一階級にあらず、然れどもこれを企業家と比較すれば寧ろ一階級として統一あり。その幾分は既に二三代間工場労働者たり、幾分は田舎より來れる者日雇人及び細農民の子供たり、幾分は以前の手工業職人、小親方(手工業親方)及び手工業者の子供たり、以前の家内工業労働者たり、而かもその大多數は本來生計全く不如意に陥りて始めて工場に蝟集せるものなりとす。工場労働者となると共に彼等は故郷、親戚、教會との關係より離れ、工場地方の劣惡住居に起臥するの運命とな

り、妻子を早くより而かも長年月間工場に送り、而して道德の源泉たる家族生活の習慣を失ひ、然り多く全く家族經濟及び家族生活を有せず。千七百七十年乃至千八百五十年の時代に、彼等は何等の衛生設備もなき大仕事場及び大工場の中に十二時間乃至十五時間の驅役に服し、騒擾と塵埃と炎熱とに曝され、屢不健全なる分勞に當られ、多くは身心共に痿痺し了れり。實に何等普通學校の設備もなく高尚なる僧侶の同情配慮もあらざりし場合、貧民行政が例へば千八百三十四年に至るまで英蘭に於て一制度として存し工場主に代りて賃銀扶助を支拂ひし場合、恐慌襲來し二三年毎に労働者の五乃至三〇プロセントが數ヶ月間衣食に窮したる場合、斯る場合に労働者が工場地方に蝟集し工場多數労働に當り而して企業家の華美を盡せる別墅その富その贅澤と天淵の別ある多數沈淪状態の瀕々として起るに伴ひ、日々相接觸し而して富豪の政治的精神的教育的世界と全然縁なき此等労働者は先づ總じて愚昧粗野の狀に陥り、次でそれぞれに精神に起れる憤怒と羨望とは彼等を合同團結せしむべきの連鎖となりその精神的統一特質となれり。この新現象發展の初期に當りては何處にも労働者に

對する人類的家長制的救済計畫なきにあらざりしが、これ等計畫は労働者の住居關係に就ては嚴密なる意味の工場地方に於ては經濟競争の爲めに蹂躪せられたり。大工場に於て企業家と労働者との根本的接觸が賃銀支拂と酷使命令とに外ならざりし事實は比々として起れり、乃ち賃銀を拂て酷使す、苟くも良將校とその部下との關係即ち愉快及び艱難、労働及び危険を共にするの關係は殆んど認む可らず。而して自由主義國家はこの喜ぶべき關係を發達せしめんことに出でず、否労働者のあらゆる抗議ありたるにも拘らず一に企業家の希望に従て舊保護法を逐次に撤廢せり(英蘭に於てはエリサベス法を、大陸に在りては古手工組合法、古鑛山法、古家内工業規定を排除したるが如き是れなり)

かくの如くして幾分既に第十八世紀に於て、而して著しくは第十九世紀の始め三分の二時期に於て労働者の體型一段劣惡となり。乃ちその羸弱なるものは滅亡し、有力なるものは能く生存したれども粗暴にして富豪階級に對し憤怨の情禁せず。就中智慧ありしものは極端なる社會觀念及び政治觀念を抱懐するに至れり。國家及び富豪階級に對しては毫も理解せざるなり。富豪階級も亦労働

者を以て懶惰者、偽善者、驅役者として卑下したり。労働者謂へらく工場内の多數組織は國民經濟の社會主義的多數組織を發達せしむべき前提たりと。かくて千七百五十年乃至千八百七十年の間に心理學的に觀察して近世賤民の貌成れり。當初は屢一揆及び暴動を現出せんとし、第十八世紀に英蘭製襪業に暴動あり、次では英蘭木綿工業に千八百年乃至千八百五十年の間革命瀕々として起れり。血か麵麩かの暗語は千八百十六年英蘭工場地に著しく傳播せり。千八百十三年リヨンの絹織物工は活きて労働せんか戰て死せんかてふ暗語を旗幟となせり。プロイセンに於ても亦千八百四十年乃至五十年の間織物工の一揆は軍隊の出勤に依て鎮壓せられざる可らざりき。

「オーウェン」、「サンシモン」、「マリアリエー」、「ルイブラン」、「ブルドンの説はこの時代に起れり。これ等社會主義者の説は未だ廣汎労働者階級に傳播せられず。千八百四十八年以來「ラサール」及び「マルクス」の學説は漸く徐々に社會一般に及びたり。政府は宛かもこの時代(千八百三十年乃至七十年)に自由放任主義の要求したる經濟的自由及び政治的自由てふ福音を西歐に實行せり。謂へらく自由放任主

義を以て一切の經濟危急は雲散すべしと—かくの如く一般に樂觀せられたれども事實はこの希望を空うせしめたり。千八百四十年乃至七十年は近世經濟の隆昌時期を劃せるが、この時貧民階級の危急沈淪も亦加はり、而して新聞雜誌將た文献はあらゆる國土に於けるこの慘狀を報告せり。労働者の一部分は今や自覺し、種々の知識を積み、労働者團體の樹立を計れり、殊に英蘭職工組合員を以て著しとす。労働者の状態が大體に於て向上せるか將た沈淪したるか、暴動及び騷擾が果して増加せるか若しくは減退したるかは千八百七十年頃に至るまでこれを概観すること困難なり、さりながら時代の變調に驚愕せる文明狂者及び多數企業家、所有階級の一部分は労働者のこの運動を恐れ、手工労働は到底粗惡なりてふ古代、アリストテレスの説を楯としてこれを壓せんと企てたり。嘗て千五百二十五年乃至千八百年の間に農民はその權利を失ひ隷屬の境遇に陥り、亞米利加の奴隷貴族は千八百三十年乃至六十年の間に始めて殘忍なる奴隸法を制定したるが、それにも等しく西歐文明諸國に於ては既に千八百年乃至千八百六十六年の間、獨逸にありては社會共和黨の成立以來、社會的反動現象と

して企業家團の發達あり、以て労働者の權利及び選舉權を制限し、聯合の自由及び職工組合を壓制し、嚴重なる規定を施行せんとしたり。蓋し彼等企業家團が一切の重大問題を以て心理學的道德的問題なりと觀じたる點は不當にあらず。曰、労働者は經濟道德上及び精神上に向上せるか若しくは墮落せるかと。而かも労働者は益粗野にして暴力的となるか若しくは愈文化し、合理的に勤勉に、給付能力愈増進するならんか？、これ抑問題ならずばならず、然り而して苟くも公平の思想を懷き遠大の眼識を備ふる觀察者は既に千八百六十五年以來、労働者の大部分然り既に團體組織を發展せるものが、よしあらゆる野性の勃發あるを免かれざらんも、印刷物及び學校に依り賃銀騰貴及び一般文の影響に依りて益以て向上發展すべきを豫言し得べしと信じたりき。

幾分は壓迫的にして幾分は促進的なる此等影響の下に近世社會運動を展開せしめ、新社會階級(即ち企業家及び労働者)相互の關係、その國家權力及び爾他階級に對する關係は獨特にして且つ新たな形體をとり、個々國家の間に相對的異同なきにあらざれども多少の根本特徴に於て一致せり。その相異點は殆んど

寧ろ個々國民の精神的政治的特殊歴史の結果にして一致點は寧ろ平等なる技術的及び經濟的變動の結果なりき。

英蘭に於ては千七百八十九年乃至千八百三十二年の間、退步せるトリーリヤ黨の反動内閣持續し、既に久しく自由主義をとれる進歩的ホイッグ黨より反對せられ、ヴィクトリア女王の下にホイッグ黨より取て代られたり。政治上及び經濟上の改良相次ぎ、始めに都市民を中心とし後には労働者の爲めに社會改良を實行せり。大工業發展の先驅たるこの英蘭に於て千八百五十年頃に至るまで民衆の沈淪窮窮最も慘、農民階級及び手工階級が大經營の爲めに壓迫せられ且つ制限せられたること未だ英蘭に於けるが如きを觀ず、個人主義的自由主義の經濟政策は英蘭企業家をして縱横無盡に活動せしめたり。千八百三十八年乃至千八百五十年の間に純政治的チャーチズムは急進的革命的黨派として現はれ、千八百五十年以後忽ち消滅したり。それ以降は何等言ふに足るの政治的社會共和黨の發展なし。その理由は單純なり、一は舊自由組織形式が労働者及びその改革傾向の運動を敢て制壓せざりしこと、二は英國民の冷靜なる政治眼が架空を去り

て實際に着き、労働者保護立法、救助組合、組合、職工組合運動、國家組織及び共同團體組織の民制化——所謂自治體社會主義等の達せられべき目的を立て判然たる効果を擧げたること、三に千八百四十年乃至七十年以來トリーリヤ及びホイッグの舊政黨及び先覺貴族社會がよし個々に觀れば些細なる社會改良なれども總じて極めて有效なる改良を期したること、四にトリーリヤ及びホイッグの兩黨何れも労働者をもその味方に引き入れんと欲したること即ち是れなり。千八百五十年まで労働者は企業家に對し劇しき敵對感情を懷きたるが、其後五十年の間にこの感情は變じて可なりの實際的協働關係となれり。労働者は自助の觀念を捨て、貴族の優なるものも亦教育及び其他の人類的规定を設けて階級間隙を補充せんことに力めたり。而して千八百八十年以來やゝ顯著となれる國家社會主義と雖も、たとへ千八百四十年乃至八十年英蘭の獨占地位に依りて其後の時代換言すれば國民經濟的進歩の寧ろ遅々となりたる時代に比し労働者の要求を満足せしむること一段容易なるものありたるにもせよ、この平和隱健なる社會的運動の綱領を變更することなかりしならん。

北米合衆國及び濠洲に於ける社會運動に就ても亦英蘭の場合と同様の見解を下すを得べし。たゞ濠洲に於ては共和主義の議會は既に労働黨多數にしてそれに準じて濠洲立法も亦労働者の爲めに有利なるあり。この労働者にとりての天國に於ても恐らく急進的の土地國有論なきにあらざれども、獨逸及び佛蘭西に於ける富豪階級を蛇蝎視せる社會共和黨なるもの未だ嘗て存せず。北米合衆國に於ても土地剩餘ありて賃銀高くその經濟發展世界に冠たるものありて労働者は大體に於て危急に陥らず。上級労働者は小家屋を所有し、中流階級に劣らざる服装を着け、職工組合を發達すれども或は共和黨に選舉するものあり或は民主黨に選舉するものあり。労働者階級は選舉に對し一黨派としての組織なし、總生産手段を國有となさんが如きは毫もその欲せざる所なり、蓋し此の如きは亞米利加合衆國に在りてはニユーヨークタマニールの意味に於ける大竊盜に外ならざるなり。さりながら概して言へば亞米利加合衆國に於ける政治的發展の健全にして毫も非議すべきものなしと言ふが如きものにあらざるは言を須たず。國家政治の極端なる民政化は他に匹儔すべき國土なし。これが結果は富豪階級

の健全分子をして殆んど全く政治圏域より遠からしめ、その貪慾破廉耻なる部分獨りあらゆる賄賂を手段として愈政治を左右し、外觀上民制形式をとりながらその實は大富豪及びこれに隸屬せる二三萬人の政治屋及び獵官者流に依て演ぜらるる極端なる階級支配劇を現出せり。四年を一期として大統領選舉に勝を占めたる黨派は競争の獲物を手に收め即ち換言すれば合衆國直接のあらゆる官職をその黨派を以て補任す、而して個々州に於けるも亦之に類せり。從て總じてその行政極めて劣惡、僅かに合衆國の富と大統領及びこれが直接補助者の大權力とに依りて我慢し得べき底のものなり。議會政治將た議會多數決の如き概して西歐諸國にこれを認むべきが如き現象は亞米利加に於ては夢想すべくもあらず。近く亞米利加の一閣員は亞米利加の國家組織に就てこれ憲法形式に基き六人の行政官に依りて無責任に運用せらるる、專制政治なりてふ評語を放てり。これ何人も熟知せる極端なる民政の必らずディクタートル政治に變遷すべき歴史的運命の端を曝露せるものならずばあらず。(譯者曰、この趨勢に對しこの判断を下す、一語千金、抑、シモラー立脚點に緣由する必然結論なるものから、そ

の史實に依據する限り古今東西に亘りて權威たるを失はず。嘗に國政に當れるものの確信こゝに存すべきのみならず、一般國民の覺悟こゝにあらずんば遂に國運を如何せん。

英語を國語とせる諸國及びその千八百五十年乃至千九百年の社會的常徑並に社會革命的競争の比較的稀有と反對して、佛蘭西は千七百八十九年以來謀叛、革命、暴動の舞臺たり、而して同時に狂的思想、想像的社會主義的將來計畫の頻々として起れる國土なりき。然り而して農民、手工、小市民、製造業者の郷土としてこの佛蘭西國が依然として集中主義的官僚政治を革めざりしことも亦他に類例を求む可らず。佛蘭西の大工業は英蘭及び獨逸の如き大發展をなさず、それにも拘らずその在來の貨幣經濟及び取引所投機は劇烈なる富豪政治的傾向をとり來り、而して「ルイフィリップ」、「ナポレオン三世」並に共和政の下に相變らず社會の利益を襲斷し、國家の政治を支配せる市民と資本とに對し恐るべき嫌惡感情を醸成したり。佛蘭西労働者階級は曩きに本譯補の第七冊 **二百二十五** にも陳述したるが如く、その餘りに甚しく分離しそれぞれ小黨派をなしたるが故に、

未だ職工組合運動に出づること能はざりき。されど社會主義の代議士は九十年代以降議會に入り來り、今や約そ五十人を數ふべし。尙ほ社會主義者 Millerand は千八百九十九年より千九百〇二年に至るまで「ワルデック・ルッソー」内閣に商務大臣となり、機敏なる大雄辯家「ジョーレス」は千九百〇二年社會共和黨の多數を聯合し（議員三十、投票數五十五萬）、而して極端派（Guesdisten 及び Branquisten）はこれと比すれば遙かに少數なりき（議員七、投票數三十五萬一千）。然れどもこの状態も尙ほ新たに劇烈なる競争を生じ、急進黨は Millerand 及び Jaurès に對して痛撃を加へたり。さて佛蘭西の共和的國家形式、一般投票權、狂熱的國民性を以てこの運動より將來如何なる活劇を呈するに至るべきか—それ或は舊教教會、軍隊、取引所、大資本の復活とならざるか—これ今日に於てこれを斷言すること難し。

獨逸の社會運動は、よし千八百六十年に至るまで營業の自由と移住の自由とを要求せる大小市民の政治的急進的小國家的民制的煽動に過ぎざりしも、爾他諸國に比し最も眞面目にして且つ最も深刻なるものあり。プロイセンは立憲國

として、千八百五十年乃至千八百五十八年の間その封建階級、舊教教會に對し強固なる黨派組織及び幾多の權力を認容したれども、大體に於て爾他獨逸に於けるが如くプロイセンに於ても亦正當隱健なる自由主義の官僚ありて關稅同盟を劃し、労働者及び農民の爲めに幾多の社會改良を實行し、即ち例へば千八百三十九年に於けるプロイセン労働者保護法あり、千八百四十九年乃至五十四年の救助組合法あり、千八百五十年の農民解放あり、千八百十五年以後一般義務教育の施行あり、而してこの義務教育制は貧民階級を向上せしむる上に最も與て力ありしが如し。手工業は千八百三十年乃至千八百七十年既に多少恐慌に襲はれたるに拘らず大體に於ては尙ほ好況を失はず。農民階級はこの時期に富裕となれり。賤民的沈淪状態の顯著なりしは僅かに家内工業地方に過ぎず。企業家の大部分は千八百四十年乃至千八百七十年の間人類主義的なりき然り労働者の爲めに配慮したり。企業家が嚴密なる意味にて政治上に勢力を得たるの實例は奧地利に一時これあり、プロイセンに於ては千八百四十八年僅かに數ヶ月の間、其後千八百六十七年乃至千八百七十三年極めて制限せられたる範圍に再びこれ

ありしのみ。市民支配てふ現象は第十九世紀を通じ全獨逸に亘り全然これを認む可らず。而して千八百六十三年「ラサール」の下に全獨逸の社會共和的労働者組合創立せられ、千八百六十九年「マルクス」及び「リブクネヒト」を首領として國際的獨逸社會黨の成立となり、千八百七十五年には「ラサール」派と聯合して一團となり、この社會黨はそれより現在に至るまで八十一名の代議士を帝國議會に送り帝國議會選舉に際しては三百萬票以上の投票數を有し、今日にありては政治的權力として第一流の地位を占め而かも實に共和的革命的傾向を藏せり。獨逸に於ける場合も亦、技術及び經營形式の變動、自由競争及び貨幣經濟の勝利、大工業及び大都市の進歩が抑階級運動の基底をなせるは事實なり。加之千八百六十五年乃至千九百年の國民的國際經濟隆興の突進と迅速とこれあるあり。然れども政治的階級及び黨派の發達が獨逸に於けるが如く社會共和的色彩を帯べるの例又他に求む可らざるの一事は獨逸に特有の原因に依らずんばならず。即ち獨逸が國民普通教育最も發達し、官僚最も優良、軍隊及び一般兵役義務最も堅實に、大經營例へば「クルップ」會社の如きに於ける労働者の訓育最も完全

せる事情は工業労働者をディクタートルの命令の下に政黨に發達せしむべき地盤として決して不利なるものにあらず。國民性格の理想的教義的なる、一般社會の哲學的推理的傾向を藏せる——これ非實際的社會主義的思想系統を發達せしむべき促進手段なりき。聯邦の割據と絶對的官僚國家とは民衆をして實際政治の訓練を教さしむるに能はず、これを以てライン州、ザクセン、南部獨逸にありてはプロイセンに對しホーヘンツォレルン家に對し無智に坐せる愚昧なる嫌惡の情盛に、共和政及び國民主權、佛蘭西主義の議會的自由活動を實現せんとする子供らしき狂氣現象あり。千八百四十八年乃至千八百七十五年の間に獨逸市民は一舉に政權に參することを認められたるが、これが實際の行使は直に以て遺憾なきまでに完全正當なること能はず。政黨及びその首領は千八百六十年以來勃興せる労働者の希望と利益とを十分に考量して以て、例へば英蘭に於けるが如くこれを在來黨派に編入すべかりし技術を缺けり。ビスマルクは先づ帝國統一のことに専心を傾注し、所謂資本家階級(Bourgeoisie)に對する彼の不快感情より一般投票權及び聯合の自由を認可し、労働者問題に就ても亦深遠なる

策略なきにあらず、例へば後來千八百八十年千八百九十年の間大保險法を施行したるが如きあり。然れども労働者は既に此の時期に入りかくの如き形式を以て満足すべくもあらず。ビスマルクは社會共和的労働者運動の革命的傾向を以て至大危険と觀じ、依て千八百七十八年の間社會主義者取締法を發布して彼等を壓迫せんと欲したり。さりながらこの取締法の結果は益社會共和的運動を激成し而して堅實なる職工組合團の發達を禁止したり。

それ然りと雖も凡そ此の如き事情は未だ以て獨逸が社會的壓迫極めて微弱なりし國土にてありながら何が故に最も劇烈なる革命的労働者運動を現出するに至りたるかの真相を説明するものにあらず。この労働者運動は余思ふに若し二偉人「拉萨ール」及び「マルクス」にして激情的にこれに與かることなかりせば現にありしよりも遙かに緩和なる別途を辿り得たりしなるべし。

「拉萨ール」及び「マルクス」は何れも純猶太的解離的性格を備へ、國民經濟上にはたゞ單に猶太人「リカルド」に依據し、政治上及び歴史思想上には一に千七百八十九年以降の英蘭—佛蘭西史を基礎とし、革命精神、急進的國民主權説に没頭し、

哲學上には、ヘーゲルの辯證論及び千八百四十年代の唯物主義に支配せられ。而して「ラサール」は名譽狂的の潜在にして第一流の雄辯家たり。「マルクス」は「ベプライ」法式の犀利なる空想的社會哲學者にして世界的煽動家たり。共に労働者のことに身を献げ社會運動を發展せしめたり。彼等はその始め煩鎖學的狂氣的政治家輩の間に必要なる文献上の黨與を發見せり。熟練労働者幾ならずして一般獨逸労働者の大衆は彼等の學說を聽きて宛かも救世主を得たるが如くに感激興奮し、その政治上哲學上國民經濟上の智識貧弱にしてたゞ々盲目的に彼等の主張學說を信仰したり。彼等の主張に繋がる學說の根本命題は多く千七百五十年乃至千八百六十年の個人主義的哲學的啓蒙より假り來れるもの。労働者はこの命題を以て自ら科學的智識の域に進み得たりと信じ、而してこれ實に科學より拒斥せらるべき弊衣を着せるものなることには考へ及ぶ能はざりき。優に三十年間を通じて社會共和的學說が教義となり、銳利なる異端迫害裁判官例へば「カッツキ」の如きが苟くも異說を咀ひたるは心理學的に觀察して自然の現象然り必然の現象たり。社會共和黨が好んで少數の「デクタブール」に服従し、この命令的統

一を以てその政治上の權力を促進することを得べしと觀じたる所以のもの偶然ならずと謂ふべし。

「ラサール」及び「マルクス」の國民經濟上の學說に就ては吾人曩きに本譯補の第一冊 **四十二**、第六冊 **二百十** にこれを叙述したり。その階級論は獨逸以外にも以て急進主義労働者を糾合したる所以のもの、之に關してこゝに尙ほ一言附説する所なかる可らず。彼等の學說なるものを攝要すれば次の如し。曰、人間は本來平等なり。社會制度に依りて始めて不平等となれり（「ヴェルテア」、「ルソ」の言）。凡そ歴史は階級競争史に外ならざるが、所謂過剩價值は近世資本積集の因をなし而してこの資本の大積集は大工業を發達せしめたり。これを以て近世史上所謂資本家階級と賤民とは唯一の社會對峙現象として殘存せり。所謂資本家階級の支配はそれが一切の生産手段を壟斷獨占せるに在り。第十八世紀に至るまでは封建貴族の支配にしてそれ以來は資本家の支配となれり。資本家の勝利資本家の階級支配は抑千七百八十九年の革命に發せり。先づ獨逸に於て主として千八百四十年代に期待せられたる大革命は同時に從來恐慌を増大せしめ現社

會秩序を擧げて破壊すべく觀ぜられ、その結果は賤民の勝利、賤民の支配、賤民のデイクタツールを現出せしむるもの。賤民の支配は最早階級支配にあらず、何となれば労働者の利害は則ち社会全體の休戚の繫かる所なればなり。壟斷主義の賃本家が支配する限りは、無所有者の數益増加し、民衆愈悲境に陥り、資本は愈少數者の囊中に收めらる。一切生産手段を資本家より奪て社会的國民團の手に歸せしむるこそ社会を救済する所以なれ。この目的の未だ到達せられざる限り階級對峙現象は日々に劇甚を加へ愈猛烈なる階級競争を現出すべし。この階級競争に當らんが爲めに賤民はその利害を意識し、一切の國別將た一切の爾他感情を打ち捨て以て一に國際的世界同盟を樹立せざる可らず。賤民は至大至強の政治的權力となり、依て爾他の階級利害を撲滅すべし。賤民の勝利に依りて資本主義的大經營組織に代ふるに技術的に完全なる民主的集合主義的(社會主義的)大生産を以てし、これを管掌するに民制的國民即ち労働者階級を以てす。これ遮止す可らざる歴史的過程にして、理想、個々天才將た道德進歩にこれが實現を期す可らず獨り經濟的發展の内在的進歩に俟て始めて始めて達せらるべしと。

この社會主義及びこれを基礎として成れる社會共和黨のプログラムは眩惑的章句及び誇張説と眞理及び正當要求とを混合せり。社會民衆主として幼稚無教育なる徒は前要素に依りて眩惑せられて動亂及び運動に出で、後なる要求は則ち高級労働者及び教育ある社會の高尚なる人格をして社會改良に着眼せしめたり。吾人は社會主義に含蓄せらるゝ眞偽兩面の要素に就て尙ほ數言陳述せざる可らず。

人間本來平等なりてふ社會主義の主張は昔も今も労働者將た貧民に訶諛する所以なれども、苟くも人類學上の知識あるものは今日これを信ぜず、その愛國的國民的感情を刺滅し労働者の利害を萬國共通なりと主張せるは、これ眞に世界市民的猶太人的獨逸的思想にして、又同時に現主權を顛覆し撲滅せんとする絶好手段たり。實際上今日の世界交通は何れの處にも嘗て觀ざるが如き周約的國際關係を生ぜしめ、君主、貴族、貨幣市場、科學、労働者は曩時に比し著しく世界的となれり。然れども世界的となりたればとて未だ嘗てそれぞれ國民的獨立の利害を失ひたるにはあらず。英蘭、亞米利加、佛蘭西の労働者は其利害

の爲にあらゆる猛烈なる競争を敢てすれども而も良愛國者たるを失はず。而して獨逸の社会共産黨はそれ自らが告白せるにも増して愛國者たらずんばならず。(譯者曰、料らずも今次の世界的な戦争に依り社会主義者の態度は頗る注目せられたるが、事實は平生の主張の如くならず、嘗に國家を超越すること能はざりしのみならず、干戈を執りて戰場に赴くの珍現象を呈せり、シモラーの斷言これを看破し得たりと評し去る可きにあらず、深く一般の考量に價するものあるべしと信ずるが故に敢てこの一言をなす)、千七百八十九年乃至千七百九十三年の如き大革命而かも當時のそれとは別の効果を擧げ賤民のみをして社会を支配せしめ一切社会階級を消滅せしめんとするの革命を期待せるは、これ今日に至るまで所謂一千年基督統治説の希望の如くに最下級労働者をして眩惑忘信せしめたる擦感なり。マルクス自らも始めは暴力的革命主義者たり、ロベスピエールの如き暴力的ディクタートルの意味に於ける革命主義者たりしが、其後冷静なる科學的進化論者となれり。現に知識ある革命黨の首領は苟くも嚴密なる意味の社会革命附その恐怖その信用遮絶が労働者に對し最も悲惨なる結果を蒙らしむべ

べきことに就て十分に了解せり。それにも拘らず彼等は脅迫的誇張を捨てざるなり。民衆沈淪、中流階級の消滅、少數者の資産壟斷て社会主義の主張は千八百四十年乃至千八百七十五年の間幾分眞理なるが如くに提説せられたり、これに就ては本譯補の第七冊 **二百三十六** に參照あるべし、今日に於ては「エンゲルス」、「ベルンシュタイン」及び其他の社会共産黨員と雖も之を舊社会主義の廢物小屋となし、而して愚民煽動の具に供せらるるのみ。若しそれ目標を意識せる階級精神の促進は、其狂氣的嫌惡及び羨望に陥らず、他階級に對する一切の平和關係を破壊し蔑視するとなき限り正當なる理由あり。マルクスは悲觀者なり、嫌惡感情劇しき狂氣者なり。彼の社会思想は全く心理學的及道德政治的根底を缺き、凡そ國家社会組織發展史に關する彼の唯物觀は苟くも社会に平和を設定し社会を調停せんが爲めになかる可らざる手段としての法律及び國家權力の意義を顧みざりしが故に、彼は賤民の不平と階級的憎惡感情とを劇烈ならしめたる所のものを悉く是認せり。一面に於ては彼の憤怒、憎惡感情、極端なる激情と他面に於ては最低級賤民社会及び殘忍なる潛主の野蠻暴戾と、これ獨逸の社会

共和的全運動が、惡むべき騷亂の邪道に陥りたるの原因なり。これ抑、獨逸社會全運動の最も卑下すべき附加物なり。これが爲めに獨逸共和黨運動は、常に野蠻暴戾として高尚なる人士に慚忌せられたるのみならず、政府をして反覆して該運動鎮壓の策を講ぜしめ、即ちその結果は例へば千八百七十八年の社會主義者取締法となり、心あるものをして常にこれが抑壓に出でしむ。「マルクス」及び其他の社會共和黨が唱へたるが如き粗戾且つ肉慾的なる唯物主義は、千八百四十年乃至千八百六十年「マレンシヨット」が無教育勞働者社會を支配したりし當時にありてこそ怨すべき點もあれ、今日よりこれを觀れば例へば教會及び宗教に對する憎惡感情と同じく精神的退歩の徽號なり。賤民の政治的支配が果して如何なる程度まで可能ならんか將た又「マルクス」の爾他の政治的急進的狂想如何は吾人これを本冊二百五十二に論及せん。

社會共和主義の所説主として「マルクス」學説の正當なる點は、その著しく進化的なること、國民的經濟生産形式及び生活形式と階級別及び政治組織との間に密接關係の存するを認めたることに在り、現今社會の最も較著なる抗立現象

が企業家對工業勞働者のそれなることを指摘し最近經營形式が愈以て社會化せることを主張せるに在りて存せり。「アダムスミス」の自由競争説が抑、小經營となり平等の資産分配を以てする國民經濟とを前提とせること、最近大經營はその監理上遙かに社會總利害に顧慮すべきが如き國民經濟組織を意義せることを闡明したるは實に社會主義の功績なり。もとよりこの世界史的大變動の程度に就ては争議あり得べきも、組合經營、株式經營、カルテル經營、トラスト經營、共同團體經營及び國家經營が曩時と別の財産形式を創設し、經營監理は所有者に代ふるに被委任者を以てし、而して一切の經濟過程が今日愈社會の總状態に依據し、從て法律規定及び經濟的中央機關も亦益社會の總利害に支配せられざる可らず、このことに就ては吾人の反覆してそれぞれ項目に關する詳説に盡したる所なり。これと等しくこの生産形式上の大變動が新分配現象を伴ひたることも亦た眞理なり。然り而して最重要にしてこゝに看却す可らざるは、社會主義が、この國民經濟上の空前の大變動とその競争とに際し貧民階級が或は沈淪隷屬の状態に陥り或は精神上技術上及び經濟上に向上し而してその權利の爲め

に競争せざる可らざるに至れることを正當に認識したる點に在り。而してこの目的を達せんが爲めに社會主義者は革命的振盪及び社會主義的忘想主義者の學說を手段となせり—この學說はそれ自體に於ては誤り、加之大部分は架空妄説たり、それが爲めに非常の危険と動亂と不當發展との因をなせるや争ふ可らず、されども他面に貧民階級を社會的に覺醒し、その知識あり高尚なる感情を發達せるものゝ良心を喚發し、精神上及び經濟上に（もとより幾多の波瀾ありながら）貧民階級を向上せしめたり。蓋し社會主義は貧民をして反省思慮せしめ、その知識欲を促進し、その合同及び訓育を助成したればなり。尙ほ社會共産黨に關する總評は後段 **二百五十二** に譲るべし。

さりながら現在に於て殆んど企業家階級及び工業労働者階級の存在にも勝りてそれが結社となり職業別組合となり政黨となりて如何なる組織をなせるか將たこれ等結團に如何なる精神が支配せるかの更に重要な問題あることをこゝに看却す可らず。吾人は獨逸の社會共産黨に流行せる精神に就て特にこの言をなさんとす。社會共産黨はその首領、その哲學上の心證並にその社會競争上の戰

術（よし反對の壓迫政策に依つて規定せらるゝあることも言を須たざることながら）に依て一つの世界觀となり一つの宗教となれり。而して又能く貧民階級の教育感情に順應せり。社會共産黨の教義が黨員を支配せるの狀は嘗て新宗教がその信徒の心を支配したりしが如し。從てこれに對する宗教的信仰と宗教的嫌忌とあり。信仰を異にするものとの共同文明及び政治的協働は教育の發達を俟て始めて起れる現象なり。狂氣的社會共産黨員は苟くも黨員以外のものとの接觸を以て罪惡にして道德上に容す可らざることゝ觀じたり。かゝる文明段階に踰踏せるものは自ら既に極端なる集中主義と訓育とに傾き。社會黨の首領はこれを奇貨としてこの傾向を益助長せしめ、從て又企業家階級に對する憎惡感情と競争思想とを煽動し、苟くも協商を叛逆と認めしめたり。これ實に社會の總利害、國家全體の休戚に對し由々敷危険の存する所、交讓接近調停の至難なる所以、先きに吾人の説明したる如し。

それ然りと雖もかくの如き基礎に立てるものは社會共産黨員の僅少數に過ぎざること、科學的教育の進歩が新首領をして益この危険を排除せしむること、

労働者社会か益諸階級に分化し、幾分は既に殊別組織をなし、(本譯補の第七冊 **二百〇九** 乃至 **二百二十五** 参照)、幾分は社会共和黨の裡に在りて規模の擴張に準じて殊別の地位をとるに至れることを忘る可らず。上級職工長、手代、高賃銀労働者の多くは今日既に屢獨立組織をなし、獨逸の印刷工は最早政黨に全然は隸屬せず、凡そ職工組合の發達は共和黨労働者それぞれ部門の獨立を促進せり。社会共和黨に屬せざる職工組合は現に(千九百〇三年八月)既に七八十萬の組合員を數ふべし。低級不熟練労働者は又それ自ら殆んど何れの社会にも別世界をなし、例へば田舎労働者の然るが如し。此等労働者は恐らく幾分社会共和黨に投票すべし、即ち多くの小農民、手工、下級事務員の如し、然れども彼等は截然社会共和黨員として自覺的に然るにはあらざるなり。

然れば今日唯一の統一賤民階級ありと唱へ將た賤民階級以外にはたゞ資本家階級あるのみと號するが如き主張は何れも誤れり。今日の多數土地所有者及び農民并に手工及び小商人の大多數は資本家にあらざるなり。此等諸階級の生活上及び階級上の種々の地位に關しては吾人既に本譯補の第七冊 **二百三十** に叙

述したれば、こゝにこれを反覆すの要なるかべし。現に約そ三百萬人の社会共和黨主義選舉人あるは即ち事實なるべきも、尙ほ千二百五十萬人の有権者と而して略ぼ之と同數の戸主とあり、三百萬人の社会共和黨選舉權の中恐らく二百萬人は労働者なるべく、然るに既婚男子労働者の數は四百萬人を計上し得べきことを附說せざる可らず。更に附言すべきは先きに計上したるが如く企業家(從て所謂資本家并に大地主をも含めて)の數は約そ五十萬人、これを社会共和黨選舉權三百萬票と合算するも總選舉權千二百五十萬票の中僅かに三百五十萬票に當れるのみなること是れなり。

社会共和黨の所説は是を以て強いて現社会が資本家及び賤民の二階級に分化せりと號するもの。既に首肯す可らず。共同團體及び國家の高級官吏、下級官吏、益増加の傾向を示せる私的事務員、并に總自由職業者(本譯補第七冊 **二百三十** の表を参照あれ)はその人數に於て著しく増加しその全體の社会的地位に顧みて企業家及び労働者と截然埒別すべき一階級なり。この點に徴するも亦社会共和黨の主張は妥當なるを得ざるべし。

加之官僚は専制國家時代、獨逸及び其他の國土に在りても屢、支配的一階級をなせり。今日に至りては官僚の地位既に舊の如くならず。妥當なることながら爾他國民は官僚の獨占と官僚主義の罪惡とを攻撃せり。されども今日と雖も諸國に於て官僚は國政料理の爲めに重要な一階級たり然り最も重要な一階級たり—その封建貴族及び貨幣貴族に左右せられざる場合に於て殊に然りとす。これが特質とその政治上の意義とに就ては尙ほ後段に陳述すべし。美術家、學者、及び記者及び私的事務員と合せて官僚は獨逸にありて忽ち一階級若しくは階級群を構成すべく。其數二百萬人、經濟上より觀れば資本家と労働者との中間に介在し、高尚なる教育を備ふる點は資本家階級と力及び労働勤務の生活を營める點は則ち労働者と共通なり。

これ等階級の特色はそれが一切階級の才幹を以て構成せられ、この點資本家階級に於けるよりも著しきものありて存することは是れなり、其精神的水準と道德的傳説とは中流階級なり。階級競争上には上下兩面に向て均勢力たり、乃ち富豪貧民間の橋梁にして媒介たり。私的事務員(例へば會社銀行員)は吾人が既に

本譯補の第四冊

百四十三

及び本譯補の第六冊

二百〇六

末段に説明したるが

如く、大企業の監理に對して益、その意義を高めたり。これも亦地位の安固、所得の増加、顯榮名譽を獲んが爲めに奮闘せる一階級たり。而かもこれ労働者と一致すること容易ならざる可し。乃ち苟くも現社會階級別、こゝに差當り特に獨逸に於けるそれを正當に判斷せんと欲せば、凡そ上來陳述したる事項を看却す可らざるなり。

千八百五十年より以て現在に至るまで獨逸の社會的及び政治的發展は、大體に於て爾他國土にありてこれを觀れば五十年百年乃至はそれ以上の時を隔て現はれたる二大運動が獨逸に一時に勃發し、而かもそれぞれ獨立しその間に毫も相互理解なかりしことを以て特色となす。

獨逸政治史上の出來事としては、千八百十六年乃至七十年の間に始めて獨逸の統一成れり。この大業は主として君主政、軍隊、官僚、プロイセンに於ける君主政主義小貴族を中心とする諸要素、「ウィルヘルム」皇帝を中心とせる偉人に俟てるもの。これに依りて君主政、保守主義派は非常に權力を増大し、議會、資本

家、企業家、民主政は寧ろその勢力を縮小せられたり、もとよりこれ等のものに對し若干の大譲歩はこれなきにあらざりき。經濟上及び政治上に無双の盛運を开拓したるは帝國建設、「ビスマルク」政策の結果なりき。

この通常の經濟的發展は上に陳述したるが如き原因に基き社會共和黨を現出せしめ、乃ち社會共和黨は全然別種の地盤に發達したる外國の抽象的理想に眩惑せられて「ウィルヘルム」皇帝及び「ビスマルク」の歴史的偉大と勳業とを全然理解すること能はざりき。從來政權より拒斥せられたる貧民階級はこゝに於て國家を極端に民制化し而して小市民的マンチエスター主義國民經濟を社會化するにあらずんば到底現社會大多數の窮狀を救ふこと能はずと信じたり。

斯の如くして極端に相乖離せる二思潮の對立競争となり。これが接觸は困難に、未だ進歩に多大の貢獻あらず。たゞ戦争、一揆、暴力に訴へざるを以て結果も亦既に尠少なりとせざるなり。歐羅巴及び獨逸は千七百八十九年乃至千八百五十年の間幾多の流血現象を経験したるが、それ以來は殆んどこれなし。これ蓋し輿論戰、選挙戰の鬱憤吐露場あり以て能く平和を維持し漸次に二思潮の間

に接觸機會を可能ならしめたるに在りて存すべし。同願すればプロイセン軍團と獨逸大文學とが久しく没交渉のまゝに經過して而かも遂に混融したるの歴史あり—今この場合に於ても亦二思潮の調停考へ及ぶ可らざることにはあらず。尙ほ吾人は先づ吾人の歴史的觀察に對し總評を下したらん後にこのことに論及するの機會あるべし。

二百五十一

階級競争、階級支配及びこれが抑壓。階級衝突、階級競争、階級支配は何れの國家たると何れの時代たるとを問はず一にその國民が統一せるか難多なるかに應じて色彩を異にし、而してこの國民の統一將た難多を規定するものは人種、分業、所得分配及び財産分配、精神上及び宗教上の文明如何なり。二に階級の分離及び獨特組織に繋かり。三に社會の統一及び平和を代表せる國家政府の力と組織とに俟てり。苟くも幾分大なる社會は歴史的に社會的分化の過程を示さざるなく、而かもこの分化過程に反對の勢力として血統、言語、血液の統一あり、又文化、宗教、總教育要素の統一あり。尙ほ法律、制度、國權の統一ありて存せり。凡そ事實上の状態はこの反對作用をなせる二原因系列

の函数なりとす。

社會か小にして原始的に且つ幼稚なるに應じ階級抗立も亦益稀有の現象なりき。舊大文明國民は常に劇烈なる階級抗立を経験し、殊に國民經濟上の大進歩に伴て階級抗立も亦劇甚となれり。貨幣經濟及び企業家經濟の隆昌は即ち最も著しき階級抗立現象を伴ひ而して遂に階級競争を醸成せり。然り而してこの變動過程の裡に看過す可らざる重大事項は、經濟的抗立現象の劇甚を加ふるにつれて精神道德上及び宗教上國民在來の統一が解體することは是れなり。かゝる時代に上流勃興階級は大體に於て社會的及び政治的道德よりは寧ろ知識と技術的經濟的能力とを増進し。貧民階級は則ちこれと異なり、悟性教育及び經濟的技術的特質に於てやゝもすれば退歩し、その舊道德の一部分(忠實、服從、分度)を失ひ。而してこれを補充すべき高尚なる特質を直に以て發達すること能はず、道德及び社會組織の大統合理想を再び抱持せんことは舊社會組織舊宗教寫象の解體せんとするこの時代に困難なり、然り屢不可能なり、屢長年月の競争と混亂とを経験したる後に始めて期し得べし。

階級抗立、階級競争、階級支配の程度は、上に掲げたる原因の相異に準じそれぞれ國民に極めて區々たり。吾人は先づ階級競争の性質を、次に階級支配の性質を、最後に相反對せる法律發展及び組織發展并に階級競争の勝敗に關して究明する所あらんとす。

(イ)種々の階級が存在する場合には、利害は一面に於て相異し分離し加之反對すれども他面に於ては則ち共通なり。反對の利害は主として外的なり、實際的にして經濟的なり、その目標とする所は卑近なり。共通の利害は寧ろ理想的にして精神的に、社會、國家の總利害及び將來を目標となす。前者は幾分毫も組織を備へざるか然らずんば組織を備ふるも寧ろ自由なり、或る場合には確固たる組織を備ふることあり。後者は慣習及び道德の裡に自由組織を備ふることもあるべし、國家及び教會、法律及び制度の上に常に或る程度の確固たる權力組織を示せり、而して時代を異にするに従ひその力に著しき不同あり。共同感情及び國民的大目的が較著なるに應じ。國家權力組織が時と共に次第に強固となるに準じ、從て又階級個々の利害は強制的にこれに支配せられ、相互にも亦融和調

二八二

停せざる能はず。然れども階級別の發達較著なる大國家に於て個々階級の殊別利害が一時的には支酌的地位を占むることもこれなきにあらず而してこれ當然の理由なしとせず—何となれば進歩將た善なるものの勝利は或る軋轢と競争とを俟たずんば不可能なればなり。國家の内的總發展はこの故に諸階級間の緊張關係、競争、平和締結と、この平和締結を將致し寧ろ階級個々の利害を捨て、國家總利害に就かしむべき政府の政策及び理想と、而して先覺者の實力及び權威とを基礎となせり。

從て國民經濟的社會的及び國家的歴史は社會平和の時期と社會競争の時期とに分かる。もとより社會平和の時期に於ても階級抗立現象はこれなきにあらず、さりながら階級抗立は尙ほ表面の事實となりて現はれず、大なる共同感情共同利害及び共同組織より全く支配せらるゝか、或る競争を経過して再び緩和せられし乃ち一定の法文及び制度に依りて能く抑壓せられたるか若しくは調停せられ、均勢状態を呈するに至る。殊に經濟上及び技術上長期間の停滯状態を示せる場合にかくの如き平和時代あり。諸階級の感情及び關係は一定の權力分配職

業分化所有分配將た一定の國家秩序及び法律秩序に順應し、社會的軋轢は微弱となり、階級支配の存する限りこれ多少に拘らず凡ての國民より當然のこととして是認せらる。

これに反對せる時代は則ち社會的競争の時代なり。經濟的分配若しくは其他の社會的及び經濟的分業が變動を來たせる場合、或る階級が技術上精神上若しくは爾他の進歩を以て新たに優位を占むる場合、在來若しくは新たに發展せる貧民階級及び中産階級が滅亡に瀕し若しくは沈淪状態に陥るが如き場合に、常に社會的競争の時代となる。權力及び支配の爲め資産及び所得の爲めの軋轢より新生活條件を基礎として晉に個々人間の競争のみならず諸階級間の競争を生ぜずんばならず。この競争は或は長期間繼續し或は短期間にして終りを告げ、その結果は或は社會改良となり或は社會革命となり、當該國家及び國民はこれを縁として或は滅亡に傾き、或は又何等かの均勢状態となり平和なる社會状態となることあり。

競争は常に三點に關せり、一は憲法、官職補任、官吏の任命若しくは選舉、

衆議員及び市町村會の選舉、聯合集會及び印刷に關する法律、軍隊組織及び裁判所組織、教會及び學校の地位、行政濫用の排除に關し。二に狹義の身分階級法及び名譽に關する法律、身分階級及び貧民階級の特權及びその撤去に關し。三に所得の分配に關せり—この所得分配は一面に於ては市場に於ては個々人の自由競争の結果にして他面に於ては經濟生活の法律的秩序に俟てり。この兩方面に現在の權力關係は影響を及ぼし、而して道德及び慣習も亦これに作用すれども、特にこれに影響するものは法律なり、個々階級をしてその經濟上の利益の爲め營利及び資産獲得の爲めにする競争馳驅を容易ならしめ若しくは困難ならしむる大制度なり。共同資産と私有資産と、共同經濟と私的經濟との一切の法律的限界規定は、その右するか若しくは左するかに従て或は富豪を利し或は貧民を利すべき權力たり。經濟上の上流階級は多少の差別こそあれ常に能く慣習及び法律を自家に有利なる方向に發展せしめ、依て以てその所得及びその資産を増大し、交通上の地位を有利ならしむ。中産階級も亦幾分はこれに類する事項に努力し、上流階級と對峙し幾分成功し若しくは失敗に陥る。貧民階級

に至りては到底上中流階級の如くこのことを考へ得べき限りにあらず、然れども慣習及び法律の貧民を保護するあり、苟くも聰明なる國家權力の然らざるなきが如し。而して貧民が自覺し、その教育及び給付能力に増進あり、それ自ら一組織をなすに及んで、その所得分配上及び所有分配上に關し、その負擔を軽減し營利機會を改善し労働條件を容易ならしめ賃銀を増加せしめ若しくは更に進んで資産及び所得分配を平等ならしめんが爲めに中流階級と同様の活動に出でたり。舊時代にありて凡そこの關係上妥當と認められたる所も後代法律感情の發展あるに至りては苛酷及び不當と觀ぜらる。此の如くして幾分は實際上の財の不平等分配に因し幾分はこれに關する判斷の變動に基き、社會階級は反覆して平和時代に繼ぐに變更及び改善の爲めの競争時代を現出せずんばあらず。舊時代にありてはこの競争は驀然目標に直進し、即ち上流階級は一も二もなく侵略地、争奪家畜、奴隸若しくは隷屬民の大部分を獨占し、反之貧民階級は富豪資産の大沒收、土地新分配、富裕者の土地家畜所有に對する極大限制、所謂徳政若しくは負債軽減、殖民地に於けるフーフエの指定若しくは劇場及び國民議會の

入場料制、施米及び其他貧民に有利なる事項を要求し且つ遂行せり。國民經濟益復雜となり、諸階級分化し古來の分業と階級別とが存在せる場合には、かくの如き直接改革かくの如き杜撰なる新組織新分配の計畫は愈以て成功の希望なし。近世時代にも亦これが大干渉の跡歴然たるものあるはもとより言を須たず。千五百年乃至千八百六十年の法律上の奴隸開放、農民負擔の撤廢、自由農民階級及び自由土地財産の新制度は非常の大變革なりき、營業の自由は國民經濟組織を新たにせんが爲めに欠く可らざるものなるが、在來營利生活の法律秩序に對する甚大の干渉なり、その結果は差當り高級企業家階級を利し手工階級及び勞働者階級を不利の境遇に陥れたり。租税の爲めその他の對國家負擔の爲めの競争はあらゆる社會的競争の主題たり、而して苟くもこれが大變動(例へば累進所得税及び相續税の新制)は或る階級に非常の利益を齎らし他の階級に損害を蒙らしむることなきにあらず。然れどもこれを大體に觀察するに、今日にありては幾分合理化せる急進主義將た社會共和黨員は正當に克ち得られたる資産權を神聖視したるに補償及び代償を拂て生産手段を集合所有(所謂社會主義に基

る共同所有)と變ぜんとするの見地をとれるのみ、一切賃銀及び俸給の平等并に一切私有財産の撤去と云ふが如きはもとより最早苟くも隱健なるものゝ要求する所にあらざるなり。この場合に於ても亦漸進變動を期し徐々に將來更に善なる社會組織を效さんことに努力するは是れ益以て問題解決の暗語たるべし。而して革命的顛覆運動は到底持續せざるべきこと詳説を須たず。然らばこの革命的顛覆運動は果して禁止せらるゝか、乞ふ後段の論述に觀られよ。

(口)凡そ階級競争は所謂階級支配の結果なるが如し。さてこの階級支配てふ概念を吟味せんは、廣狹二義あり。一、富豪と貧民との間、主人と奴隸との間、企業家と勞働者との間、債主と負債主との間、有力なる販賣者と無力なる購買者との間の通則的經濟關係に依て生ずる社會的依繫關係是れなり、これに就ては第三卷を通じて既に説明したり。これ私法に基き、當該關係者の精神上技術上經濟上の發展程度區々たるに起り、或る程度までは常に避く可らず、道德、法律、制度、國家組織も亦こゝに因する所以なり。而かもこれ等精神的權威(道德、法律等)益高尚なる發展を遂ぐれば少なくなるともこの依繫關係より生すべき甚

しき濫用は、これを制限し若しくは排除すること愈容易なるべし。二、更に廣義の階級支配あり一階級支配と言へば寧ろこの廣義に解するを至當とすべく、吾人のこゝに階級支配を観察せんとするも亦主としてこの義に在り。この意義に於ける依繫關係は、強大階級が國權に影響し國權を支配し、その個別目的の爲めその經濟的利益の爲めに常に經濟的優勝力を用ふるのみならず、政治的權力、國家の主權、職權を濫用することに基くものなり。かゝる場合には上に陳述したる私法的濫用も亦愈以て甚大なり。從てこの意味の階級支配はその繋がる所廣汎にして重大、言はゞ國法上の概念たり。かゝる階級支配はたゞ單に自然的恒常的現象たるのみならずして又常に墮落現象たり而してあらゆる手段を盡して抑壓せらるべき事實たり。何となれば國權は抑國家社會の總利害の爲めに利用せらるべく而して一階級の個別利害の爲めに濫用せらるべきにあらざること國權それ自體の本質に在りて存すればなり。

さてこの意味に於ける階級支配が何時何處に起りたるか、等しく階級支配と言ひながら其間に如何に霄壤の差別あり得るかを究明せんが爲めに、吾人は上

來の歴史的敘述に加へて、既に本譯補の第三冊百〇一及び本章の序論二百四十五に於て國家組織の本質に就き陳述したる所を反覆せざる可らず。

若しそれ殆んど平等市民より成れる極めて小規模の共同團體は、交代制の團體長と市民全體の議會とに依り敢て強制權力及び權力裝置を俟たずして容易に民制的に統治せられ得べし。姑くこれを別問題とすれば凡そ大規模なる國家は廣大なる國家主權と強固なる強制權力とを備ふる支配的國權を發展せざるはなし。蓋し權力は國家それ自體の本質に在り、苟くも一國家は優勝權力を以てするにあらざれば内に向て良行政を行ふ能はず外に對して敵讐なき能はざればなり。この權力は決して單に個々人に俟つこと能はず、又數千人數百萬人の總市民より直接に行使せらる可らず。否、その能く事を處理し決定し得んが爲めには官職組織、命令者服從者(治者被治者)の組織なかる可らず。必らずや軍人、僧侶、貴族、官吏の諸階級發達し、統一主權の下に確固たる組織を得て始めてここに權力を生ず。凡そ舊時代の高尚なる國家組織はその端を會長若しくは國王に發しこれを補佐するに貴族將た元老院を以てせり。一般國民は本來國民議會

に協賛権を有したるが、その多少の権利を確保したる場合にありても尙ほ漸次に多くは國家生活の受動的分子となり了れり。奴隸及び隷屬民に至りてはもとより言ふに及ばず。國王とし言へば國民幸福を計れるよりは寧ろ倨傲に居り濫用に陥れる場合多かるが、先きに吾人の叙説したるが如く、希臘及び羅馬に於ては貴族の爲めに廢除せられたり。かくて貴族は最早上より抑制せらるゝことなきに至りて早晩權力濫用に陥ることを避く可らず。嚴密なる意味の階級支配こゝに始まる。この亂狀を救治せんが爲めに或は政權を廣汎社會階級に與へたること、例へば羅馬にて農業平民を政治上に參與せしめたるが如きあり。羅馬に於けるが如く官職及び政府の權限が詳密且つ確實なる發達を遂げ、新たに政治に參與することを許されたるものが國家的義務の執行上に優秀なる訓練を備へたる場合にはこの事成功したれども。然らざりし場合には徒らに民主的民衆の利己主義的にして卑近に且つ不可能なる要求と階級利害とを横まゝならしむべき危機を曝露せり。その結果は革命となり顛覆となり、遂にはデイクタートルの出現となりて以て殆んど一切の社會大革命と市民戦争とを一掃するに至るま

で如何とも救済すべき途なかりき。

(ハ)されば復雜なる大國家の社會階級史及び組織史は根本的に次に掲ぐる發展段階を経過するが如し。一、先づ確固たる國家權力の樹立あり、而して絶對的に一定の君主族黨若しくは貴族階級の權能を基礎となす。これ等少數階級は當初は善良にして正當なる政治を施き、次第に權力濫用に陥り、こゝに階級支配の端を啓く、二、こゝに於て更に廣く權勢と選舉權と官職とを授け、このこと遂には一般民衆に及び、而してその正當なる限り差當りは適度を失せず、主として確實強固なる政府の存續する限り良結果を伴ふ、されどこの勢は漸く極端に流れ、政治上の無能力者にして過大權力を獲得し、民主的階級はたゞ單に一時の利潤と利益とを博せんとす。かくの如くして曩きの貴族的階級支配に代ふるに更に劣惡なる民主的階級支配を以てし、苟くも確實安固なる國政料理と正當なる政府とはこゝに絶滅す。三、此紊亂狀態は、自由國家に於ける利己主義的利害益、猛烈なると相匹敵して政府装置が愈、完全に且つ愈強固を加へ、國家權力が高尙なる人士の掌握する所となり、階級權力及び階級勢力よりも一層有力なる

にあらざるばこれを禁止すること能はず。而してこれ國家組織法及び國家行政法が益精醇にして正當なる發達を遂げ、國政に當るものをして不偏不黨、階級の上に超然たらしめ、社會を通じて上より下に及ぶまでこの國政に當るものが正當に配置せられ統一的に能く協働して以て國家及び社會を精神的に支配するを得て始めて可能なり。

依て吾人は凡そ高級文明を發展せる國民にして多少階級支配の端と傾向とを示さざるものあらざること然り凡そ市民權の均霑は差當りこの危險を増大せしむること、然れども他面よりこれを觀察して苟くも高級文明國民は法治國家を確立し法律感情及び法律統制を擴張し發展して以て階級支配及び國家的權力濫用を均勢せんことを力め、而して或る程度までこれに成功せることを認識す。古來時代の道徳的・法律的・判斷的發展は或る法律原則を人類社會の最高權威と認めしむるに至り。既に法律を宣言せる最も幼稚なる會長と雖も少なくとも法律の權威に據り、社會の總利害を目的として處理することに假托せり。社會の總利害に顧慮し階級利己主義を抑止することは一切の支配者にとりて益必要とな

れり。而してその間にあらゆる退歩現象ありあらゆる階級濫用の新たに發生したるものあるにも拘らず、尙ほ歴史は進歩を示し、即ち一面には政治上及び社會上の關係に對する洞察力の増進と治者・被治者共に法律感情の發達・醇化せらるるに基き、他面には法律制度及び國家組織形式の發達ありて階級濫用を禁止し、階級濫用は遂に絶滅すべからずとするも尙ほ曩時に比して確實且つ正當なる政治を容易ならしめ、乃ち一切階級をしてその正統の權力を享受せしめ而かも單に一階級のみをして専斷支配を敢てせしめざらんとするの發展に基きて—歴史の上に進歩の跡を徴すべし。この目的は決して自然に放任して悉く達せらる可らず。大政治運動は古來反覆してこれが爲めに努力したり。

希臘の國家理想、自由國家時代の羅馬官職法、苟くも假さざる「ツェーザル」のインベリウム、基督教に依りて人類化せられたる中世時代の法律、中世教會支配の制度、近世勃興の國權、啓蒙專制主義—封建貴族的階級統治に對する其抗爭及び良裁判制度・良行政を實施せんとする其努力、最近憲法組織の法律保證、最近民主政の貧民階級の地位を改善せんとする計畫—凡そ此の如きは敢て過度の

階級濫用に陥ることなくして能く強大政府を樹立せんとする人類發展史の荆棘多き困難なる途上に少時憩はれたるステーションなり。

ツェーザル政治及び世襲君主政の世界史的意義は、警察權、官僚、軍隊組織を後楯となせる確固不動の國家權力を樹立せんとするに在り。憲政的及び民主的革命的運動のそれは再びこの國家權力の濫用を抑止せんとするに在り。その貴族的及び民主的共和政を樹立してこゝに確固不變の國家權力を實現し而して主として階級支配に陥ることなきを得るに應じて、君主政は國家形式として恐らく滅亡すべし。然れども事實上には今日に至るまでこのことを殆んど想像だもせしめず。現今の大共和國及共和國に近似せる羸弱君主政は富豪政治ならずんば封建貴族政治なり、然らずんば則ち民心を支配せる政治家及びディクタートルの獨裁政治に傾ける國家形式を示せり。従て確固たる世襲君主政にして同時に自由組織なる歐羅巴諸國の國家形式は、遠大不可能の空想は別問題とし差當り過度の階級濫用を抑止すべき最善の保證を與ふるものなるが如し。

此等國家は現在に於ては主として次の事情に依りその任務を容易に遂行し得

べき地位に在り。一、政治的分業の發達あり、その結果特殊の身分階級と貧富階級とを生じ、それぞれ國家勤務の爲め且つは公共的利害の爲めに畢生の勞働を貢献せしむ、二、輿論の權力増進せり。三、現事實を觀察するに社會階級の組織は曩時より強固に、加之競争上屢利己主義的活動甚しきを加へたるものあれども、法律の制裁ありて傍若無人の射利に出づることを許さず相互的にも亦制限せられずんばあらざるなり。既に僧侶統治の國家に於てその政治が比較的に良果を收めたるは支配者たるべきものを國家支配に關して特に教育したるの事實に基けるが。戦争的貴族政にありても亦幾分は之に類するものありき。プラトンの所謂哲學者統治の觀念(譯者曰、「プラト」著の共和國を閱せらるべし、本譯補の第一冊にもその綱領を掲げて多少の批評を加へ置けり、又披見せらるべし)も亦これと同一の思想に發し、其後羅馬のプリンチパトはその官僚養成上にもとより不完全ながらこの思想を實行せり。然り而して最近數世紀の間に始めて概して歐洲諸國に、法律家、官吏、軍人、僧侶、教師の諸階級發達し、此等は屢社會のあらゆる階級より補充せらるれども、等しく大學教育を受け、

幾分は自家の所有に依り幾分は給與に依りて經濟上に安固に、以てその全生涯を公的職務に貢獻せり。此等階級は幾分それ自ら狹量となりたゞそれ自らの利益のみを計り、殊に公的權力及び爾他市民の公權參與が官僚の濫用を禁止することなき場合に於てその弊害の甚しきものあり。然れども大體に於て國家機關はこの種の分業に依り治者階級のこの訓練に依りこの階級に發達せる健全なる傳説及び思想に依りて史上未だ嘗てあらざる活力と確固たる組織とを發展し、而して他面に階級支配に對し古代國家及び中世國家に認む可らざるが如き障壁を發展せり。此等階級は理想的國家觀及び經濟觀の支持者たり、その封建貴族若しくは所謂資本家階級より發達せる場合と雖も、思想水準は最早や營利經營將た純階級僻見のそれにあらず、その日々接觸すべき貧民及び中流階級の利害を理解すること營利的富豪階級の比にあらず。乃ちこれ等官僚階級は辯護士、醫師、美術家、記者と併せて嚴密なる意味の抗爭階級に對し中立的社會をなせり。加之現今の輿論の發達あり、その自由にして支配階級より買収せられざる限り又中立的一勢力たり。

階級利害の爲めに演ぜらるゝありとあらゆる階級分裂と激情的煽動とこれあれども、現今の文學及び印刷物は、よし其個々機關は如何に階級抗爭の具に供せられんとも、尙ほ以て健全なる輿論を發展し、而してこの輿論は政府及び階級の權力濫用に對し感情的反動勢力たり。(譯者曰、輿論の作用に就ては本譯補の第一冊を閱せらるべし)。されば輿論は屢怯懦にしてその見識遠大なること能はず、合理的改革を禁止することあれども、遂には必ず高尚なるもの善なるもの正なるもの直なるものと合致せざんばあらず。苟くも有爲聰明なる政府はその階級利己主義及び階級濫用を抑止する限り輿論を味方とすることを得べし。然り而してこのこと今日に於ては愈以て容易なり。何となれば近世大國家社會は常に治者被治者てふ二階級に分化せるのみならずして實に甚しく利害を異にせる一系列の階級に分化すればなり。僅かに貴族平民てふ二階級分化に過ぎざりし單純なる關係に於ても既に聰明なる君主は君主と敵視し抗爭したる貴族を制せんが爲めに直接に平民を味方として君主の權力を安固ならしめたり。凡そ舊時代の王權並に近世の啓蒙專制主義若しくは「クロムウェル及び「ナポレオン」の

二九八

支配は何れも平民黨を味方となせり。然れどもかく分離して而して統治すること (divide et impera) が殊に容易なるは、僧侶貴族と戰士貴族と對立し、田舎の財産家階級と都市の財産家階級と對立し、地主と製造業者と對立し、これ等兩階級の外に尙ほ貨幣貴族銀行家貴族もその獨立利害關係を代表して一階級をなし、或は有力なる自由職業者階級あり、乃ち自ら資産に乏しく若しくは敢て大所有あるにあらざして而かも政府及び輿論の主要素たり、時に富豪所有階級に左胆し時に貧民階級に加勢するものあるが如き場合なり。今日にありては諸國概して優勢なる貴族階級の外に、農民、借地人、小手工及び小商人より成れる廣汎中流階級のあるあり、以て上流階級及び貧民階級の階級利己主義に反對せんとする氣勢を示せり。労働者と地主、労働者と所謂資本家階級、労働者と中流階級とのありとあらゆる同盟結團は現に存在し、純社會主義的階級史の狂想的辯護者たる「ロリア」の如きもこの事實を承認せざる可らず、而して從來の社會的進歩を多くこれより演繹説明せり。英蘭のトリッリー黨が主として英蘭労働者保護法を施行したるが如き、「ビスマルク」が「ラサール」と協定し、所謂資本家に對する抗爭

手段として一般選舉權を認めたるが如き、皆是れ種々の階級利害を結合し而して相矛盾せる階級利己主義を抑制したることを證明せるものならずんばあらざるなり。

(三)かくの如くして吾人は國家的發展の内的必然原因ありて以て愈益階級支配を制限するを得べく且つ制限するに至るべきことを確證し得べしと信ずるも、これ未だ階級支配の全く消滅すべきことを確言する所以にあらず。然れども階級支配の活動將た處理の方法に於て面目を革め益善にして正當に且つ合理化すべきを希望するは恐らく不可なからん。(譯者曰、戦は止まず又止むべきにあらざるなり)。

嘗て法律及び國家の發達幼稚なりしや、それに應じて社會的競争も亦愈以て極端に陥り、一揆となり革命となり、暴力の支配となり、多數者殺戮となり、大沒收となれり。古代にありては歴史を通じてかゝる慘狀の連鎖ならざるなし、近世史に至りては少なくともこの如き極端現象は稀有に屬せり。尙ほ概して如何なる原因に基きて個々の階級競争は社會革命手段に訴ふるか若しくは社會改

良の方法に出づるかに就て一言するは徒事ならざるべし。

これを決する上に最も重要なるは政府の實力及び權力なり而してその識見及び正義の程度なり。次で重要なるものは舊きを辯護する階級と新らしきを要求する階級との力及び組織如何なり。然り而してこれを規定するものは階級組織に關する法律状態と精神的に強固なる階級意識を發達せしむべき可能なり。古代に於て確固たる組織を發達し得たるものは上流階級に止まり、貧民階級は組織を缺き若しくはこれを禁止せられたること、今日は之れに反し貧民階級は屢強固なる組織を發達することは是れ吾人が先きに本譯補の第四冊 **百三十五** 乃至 **百三十六** に説明し且つ主張したる所なり。階級及び黨派の組織の方法と力とは重視すべきものから、公的總法律状態及びその類廢若しくは弾力性、類廢状態に關する自由論評の範圍、社會改革の爲めに國家機關、國民議會若しくは議會を利用し得べきの可能も亦看却す可らざるなり。公的精神が近世組織に依りて益、弾力性を帯び來りたる場合には愈以て極端なる革命の破裂を防止し得べきの可能あり。

然れども社會的革命的革命の破裂は一時的現象としては避く可らず。屢鎮壓せられたる場合あり、又屢篡奪者が暴力を以て勝を占めたる場合もなきにあらず。不正及び正義勝を制するは必らずしも常に期す可らず、否偶然にして政府無能に暴動首領は則ち堪能若しくは無道、これに加ふるに外國の容喙ありて一階級をして一時國家社會を支配せしめ、かくの如くして動亂に次ぐに動亂を以てするとあり。嘗て英蘭、羅馬、中世都市に頻々として起りたるが如く、革命幾ならずして反動を惹き起さざる能はざるもの是れなり。かくて歴史は騷擾動亂を反覆し、平和状態長く回復す可らざることなきにあらず。其間に貧民階級は場合に依りては愈悲境に沈淪するを免かれず。たとへ如何なる政府にても然り暴虐專斷の政府も尙ほ不斷の無政府状態よりは勝れり。外權支配(外國に隸屬すること)及び軍事デイクタートル政治が嘗て階級競争の結果たり而して近世と雖も幾分この結局を観る所以のもの實にこゝにあり。

この故に凡そ合理的人格は常に社會改良を叫ぶも而かも社會革命を難ぜざるなし。古代にも亦社會改良に成功せる事例あり、例へば「ソロン」の如き、基督紀

元前第五世紀乃至第三世紀の羅馬のその如きは是れなり。然れども民衆の激情と社會不法の壓迫との爲め、貧民並に上流社會の兩方面より反覆して革命的出來事起り、その果して所期の目的を達し得べきかは極めて疑はしかりしも擾亂は絶えざりき。革命は難くあらざる手段を盡してこれを避去せざる可らざれども、ここにたゞ一事の忘る可らざるものあり、即ち形式的法律が果して實に社會進歩の爲めに妥當なるか屢疑はしく、屢高尚なる實質的法律(革命の要求する所の)と既に蠹朽せる形式的法律との矛盾を問題とする場合あることは是れなり。たとへ革命がそれ自體に不成功に終れる場合にも、繼次時代に對し將た他國に及ぼすべき影響に至りては以て進歩改良を促進するの機會となり必らずしも無意義ならざることあり。(譯者曰、革命はその成功せる場合にも徒らに人命財産を失ひ機關設備を杜絶し破壊し何等得る所あらず、況んやその單に一時の動亂騷擾に終るものをや。然れども陳勝吳廣ありて風雲既に山角を捲き、頂羽の席卷怖公の飛揚皆こゝに因縁するを思はゞ、凡そ端を啓き自ら先驅したるものゝ意義は徒事ならざるべし、四海交通の今日に於ては砲聲一發忽ちにして世

界の耳目を聳動せしめ、乃ち雷に時間的のみならず空間的にも亦響應して起つ結果を伴はずんばあらず、その繋かる所大なりと謂ふべし、察せざる可らざるなり)。然り而して天才あり遠大見識を備ふる首領が忽ち暴動を鎮壓し、暴力を以て強制して新たに進歩状態を實現せる場合に、かゝる首領は常に後世より偉人として尊崇せらる。蓋し新たなるものは必らずしも常に平和的に勝を奏すること能はざるなり。

さりながら今日吾人の希望し得ること冀求せざる可らざることとは、自由論争を以て能く大社會改良をも實施せしめ得ること、これが爲めに暴力及び恐怖主義に訴へざること、見識遠大なる政府これに當りあらゆる正常なる形式にて社會改良を實施し而して又これを永續せしむべき保證を與ふること是れなり。從て又吾人の希望し得べきは現制度上の社會的變動が諸階級の人格的精神道德的特質に應ずること、新たに優位の權利を享受する階級がさながらに文明の支持者たり、その所得が國家の總利害と予盾なきことに外なる可らず。

こゝに於て吾人は斷言することを得べし、曰、曩時と雖も兼ねて國家及び國

民經濟を大體に於て進歩せしむることなくして能く久しく隆昌を致せる階級あることなく、又兼ねて社會全體に對するその義務を忘るゝことなくその特長及び給付能力に於て將た政治的若しくは經濟上の道德に於て退歩することなくして滅亡したる階級あることなしと。苟くも壓迫せられたる中流階級は、その經濟上及び精神上に復活し、その生存及び活動が社會の總發展の爲めに有效なる限り能く滅亡せざるを得べし。貧民階級に就てこれを觀るも、そのたゞ單に暴力に訴へ、上流階級を怨望し而して理解せず、一に實行す可らざるユートピアを追ひ求むるが如き場合に、能く久しく勃興の運命に乗ずること能はず。その能く政治上に權利を増進し經濟上に所得を増加し得るは、技術上經濟上及び道德上に向上し、社會總進歩の支持者たり。それぞれ分野に服従及び訓育の徳を發達し、たゞ單に煽動的潛主に隸屬せずして有能にして且つ節度ある首領に從屬せる場合に限れり。凡そ階級濫用及び階級支配は全く消滅すること決してこれあらざるべし。レナン書て曰、猶太精神は世界史上社會的正義の支持者たり、然れども亦何れの處に於ても苟くも確固強大なる政府を絶滅せんとす、蓋し政

府なるものは既に人間それ自體の然るが如く多少の社會的濫用を認容せざる限り考へ及ぶべき限りにあらざるなりと。余思ふに眞實なる思想この言の裡に在りて存せり。社會的正義の精神は到底確固強大なる政府と交譲せざらんとして決して得べからず、而して畢竟一旦の場合には極端なる民主政は化して專制政治となりディクタートル政治となり、以てこの必至の交譲に終局す。

差當り現代文明國民にとりて重要なは、國政を執り國家を進歩せしむべきの技倆ある大政治家が同時に延身して社會改良のことに當り強烈にして而かも平和手段に訴へ以てこれを實現せんことを希望すべきこと是れなり。嘗てハルデンベルヒが這種の計畫に出でたる時、ニイブルは彼に書を送りて次の如く言へり。曰、卿の踏み入れる險路は保守的反動並に革命的急進主義より攻撃せらるゝの危険ありと。然り苟くもかくの如き意味の社會改良がかゝる危険に襲はるゝことは疑なき所。これに依りその能く目的を達し所期の社會改良を實現せる場合に於て效績愈著大なるものある所以なり。社會改良は力に俟たずんば期す可らず權力と勇氣となぐんば果す能はず。而して權力は今日民衆政治及び

民主的傾向に依據することに依りて得らるべく、獨逸にありては恐らく寧ろ君主政の大傳説に依頼するを以て容易となさん。

二百五十二

社會の總發展、現在の狀態。前節に吾人は階級支配と組織發展との關係を概説したれば、今や残る所の問題として社會の總發展を攝要略述し併せて現競争とその將來の蓋然的結果とに一瞥を投ぜざる可らず。

(イ)社會の總發展に關しては一切階級抗立の消滅を希望せる社會主義的樂觀説と歴史上階級抗立現象の増進劇烈のみを認むる所の悲觀説とあり。社會主義思想の前提は、一切分勞及び分業の消滅なり、一切人種別、才能別、稟賦別の消滅なり、都市と田舎との差別撤去なり、一切の優者の撲滅一切の劣者の消滅なり、乃ち優者を容さず、劣者を認めず、出來得る限り中位能力の平等人間を生ぜしむべき人爲的教育組織なるなり。此の如くして果して進歩を效し得べきかは吾人の認めざる所、況んや果して如何なる原因及び制度が能くかゝる狀態を實現し得べきかに於てをや。

然れども反對に果して階級別絶えず増進して止まざらんかも亦歴史的に證明

す可らず。然らずんば現今國家に於ける貧民の沈淪狀態は濠洲人若しくはフイラデルフィエゴイ人と同じからざるを得ざるべし。それ同一國民、同一家族に屬す者の相互は、血液混合、言語、其他の精神上及び物質上の接觸と模倣とに依り常に影響作用す。されば個々人及び全階級がそれぞれ國民の輒に一時如何に著しく勃興し而して貴族階級としての他位を維持せんとも、遂には中流階級及び貧民階級の勃興あり、相殺現象均勢過程も亦それに應じて顯著ならずんばならず。この二つの運動傾向は幾分は部分的に同時に起り、幾分は且つは通則としては歴史的に繼時に起り得べく、而して心理學的及び社會的原因に基き必然的に相伴ふ。然り而して一方階級分化運動の程度に關し、吾人は若し上流階級と貧民階級との間の間隙が餘りに極端に走れば國民はその爲めに殘虐なる競争に依り滅亡すべきことを斷言し得べし。この故に精神力及び感情力、富及び技術、法律及び道徳に繋がる人類進歩は、必らずや最も進歩せる國民にありては貧民階級も亦これに均霑することを意義し、たゞ問題とする所はその均霑の程度なり、階級分化が一時如何に較著にして均勢過程が殆んど没却せらるゝか是れの

み。乃ち歴史の示す所に徴するに、侵略を主義となせる古代の大國家はカステル制度及び奴隸制度を嚴守し、諸階級間の結婚を禁止し、法律上に階級別を立て、職業を世襲とし、人間を犠牲に供し野蠻にして憐憫の情なく、以て其階級抗立現象の極端なると古代文明國家の比にあらず、古代文明國家も亦近世時代に對すれば同日の談にあらざりしが如し。今日に於ては嘗て希臘及び羅馬に存したりしが如き富豪階級の支配は何處にも發見す可らず、又當時屢現はれたりし賤民支配(賤民が政權を左右すること)將た中流階級消滅の現象も決して今日何處にも之を求む可らざるなり。蓋し吾人は希臘羅馬文明の繼承者として更に高尚なる法律と更に確實強固なる國家權力とを發展し—共和國にありても然ればなり。今日の文明國家にありては、あらゆる階級抗立現象の新たに増進せるものあるにも拘らず、曩時に對し人種關係更に等質に、教育關係及び文明關係遙かに一樣均等なるものあり。今日に於ては何れの國土を觀察するも希臘羅馬の當時の如き大土地兼併なく、資本家階級あらず。勞働者階級は古奴隸の如くしかく權利を奪はれずしかく沈淪せず、古代都市の賤民の如くしかく劣等ならず

政治的に無能ならず、古代傭兵の如くしかく残忍ならず掠奪的ならざるなり。これが原因は大體に於て單純なり。精神的道德的進歩は漸次に益あらずる階級に及び、醇化せる宗教組織—歐羅巴に於ては基督教—は近時に至るまで殆んど一様に全國民を支配したり。社會の富は大に増加し、依て富豪の大資産を積集せる外尙ほ貧民をしてその生計を改善せしむべき餘裕を生じたり。凡ての法律、凡ての政治上及び經濟上の制度は人類化し、舊社會状態を律したる酷薄無情を脱したり。權利平等、職業撰擇の自由、移住の自由、結婚の自由は到る處に接觸機會と進歩の可能と血液混合とを生じたり—これ嘗てあらざりし現象なり。古代文明は世界的宗教及び世界的言語の發達と共に既に凋落し、今日の世界交通は心物兩界に社會的促進的統一を效し、世界法發達の端を啓き、一切の社會的進歩をして忽ちの間に諸國民に傳播せしむ、例へば奴隸制の撤廢、勞働者保護法の施行の如き是れなり—是れ二三百年前に夢想だも及ばざりし進歩なり。

この進歩を效せる最も重要なる原因は常に一面に於ては精神界觀念界に於け

る變動なり、この變動は或る物質的前提に緣由すること自然なれども悉く物質的前提を俟て生ずるものにあらず、而して他面に於ては政治上社會上及び經濟上に於ける總制度の變動なり。吾人は前節を補充しこれに就て尙ほ數言陳述する所あるべし。

文明の發展に伴て個人主義、利己主義、營利衝動も亦發達することは疑なし、然れどもそれと等しく總ての高尙なる感情、同情、憐憫、血縁なき者將た職業を同じうする者に對する同感共鳴、愛國心、社會的義務感情の發達も亦これあり、人口益稠密なれば愈以て他人に對する顧慮の念を増進し。欲望、慣習、生活習慣、交際形式は愈統一す。今日に於て人々相呼ぶに皆一樣に汝(du)てふ語を用ふるが如く、服裝上に於ては百萬富豪も屢殆んど勞働者と區別す可らず。都市生活の増進に伴て平等衝動及び平等觀念も亦昂進す。政治的自由の増進は責任感情を發達せしめ、分業の發達は常に連帶責任の念を増進せしむ。社會關係に對する知識益増進すれば、則ち人々をして愈對他的顧慮心を啓發せしめずんばあらざるなり。然り而して文明發展の賜たる社會的教育過程が社會組織に

及ぼす影響最も甚大なるものあり。教育が單に兩親若しくは家庭教師のみに依て施されたりし限り、進歩は極めて限局せられたる貴族社會に止まり、一般國民は則ち關する所にあらざるなり。一般教育制度の實施せらるゝに及んでは事情全くこれと異なれり。古代の最大社會改良家たるソロンは豫じめ債務の爲めに身を賣るの制を撤廢し、工業に従事せるもの、名譽を高めて、從來の貴族的學校及び體育練習所に國民の大部分をして入學するを得せしめたり。社會的學校改良を期せんが爲めに民主的學校改良の計畫は先づ起らざる可らざりき。今日最も聰明なる英蘭の印度行政官は、カستن制度に直接矛盾する政策の悉く失敗に終るべきを看取し、近時は教育制度の改善より進まば以て豫想し得べき將來にカستن制度を撤廢し得べしとの希望を漏せり。然り國民全般に向て開放せられたる一般的社會的教育組織に俟ち—即ち基督教會にその萌芽を發し、中世時代には既に上流階級に對して實施せられ、次で宗教改革者より普通國民教育實施のことに努力せられ、遂に最も進歩せる國家權力主として獨逸國より最近百年の間に高等専門學校の外に獨逸國民學校の實施となりたるが如き—社會

的普通教育組織を俟て始めて差當り幾分職業撰擇を自由ならしめ、貧民階級に屬する才幹あるものを高等の學校に入學せしむることも可能となり、最も甚しき社會的隷屬關係を生ずべきの因たる最も極端なる社會的抗立現象を排除するを得たり。第十九世紀の前半期に英蘭賤民労働者の頽廢を來したる原因は、一に國家が學制改革上に盡す可かりし義務を全然閑却したるに坐せり。既に「ロバート・オーウェン」は社會改良の中心點が労働者の子供の教育に在ることを觀察せり。もとより單に學校のみとは言はず―而かも學校は根本的に且つは身體上智識上及び道德上の訓育に關する爾他の手段及び制度と相俟ちて以て我が貧民階級の將來運命を左右すべき大樞機たり。我が一切の教育制度が益家族と離れ、益大組織として國家、共同團體、結社、組合に屬し、普通國民學校、補習學校、專門學校の外、一切の労働者、職工長、總中流階級に對して益美術工藝學校の設けらるゝに至れば、愈以て不都合なる世襲的階級勢力を抑制すべき均勢力を生ずべし。若し廣く教會學校及び私立學校を認むる場合には、全教育制度は國家が多少に拘らず學制を直接管理施行する場合に對し統一を缺かずんばあらず。

それ然りと雖も彼の民主的樂觀者流の信ずるが如く、今日既に教育の爲めにあらゆる高尚なる特質の世襲的傳説が悉く退嬰し、今日既に身心特質が頗る非常の弾力性被教化性を發展し苟くも個々人を欲するがまゝに完全なるものと化し得べし―教育は萬能にしてなさんと欲してなさざる所なしと言ふが如く主張するは抑輕斷なり。然れども學校、印刷物、劇場、輿論が全國民の上に益統一均勢的影響を及ぼすことは確實なり。かくて一つの精神的潮流發達し、この潮流はあらゆる毛細管に浸透し以て幾分社會を民政化するの作用あり(譯者曰、これ等の現象將た運動に關して本譯補の第一冊、心理學的社會學的敘述に參照する所あれ)。近時この民政化均勢化の最も較著なるは歐羅巴人の殖民地にして、該殖民地には歐羅巴本國の賤民と貴族とあることなく、一般普通學校はあれども高等の學校教育及び精神教育は未だ普及せず、蠻的來住者及び殖民者の競争淘汰の結果として全人口の體型は一般に中庸平均せらる。かゝる社會にありては資産の相異は歐羅巴に於けるよりも遙かに顯著なるものあるに拘らず人間それ自體は則ち全く均勢的民主的特色を示せり。シウイツも亦その學制上教育上

たるか、現今労働者階級の地位向上が如何にその組合法に俟ち、その職工組合及び仲裁裁判所、その組合、その保険法、労働者就職案内、并に労働者保護法及び近世合同労働者契約(請負)に俟ち、且つ又如何に現今法律に依りて認可せられたるその政治的組織、議會及び地方行政に選出し得べきその代議士制度に俟てるかはこゝに一々言ふを須たざるべし。又吾人が先きに絶對的自由競争の益制限せらるゝことに關し、共同團體及び國家の議員増加に關し、私經營法律組織の變動に關して説明したる所をこゝに反覆するの要なかるべし。大企業は既に説明を試みたるが如く、組合的社會的形式をとりて、益以て經濟的及び國家的機關に依り輿論に依りて統制せらるゝ準公的設備と化せり。

凡そ暴力的階級競争を制限し、弱者を保護し向上せしめ、強者をして權力濫用に陥らざらしめんとし、中流階級をして曩時の如く一朝の變に際して忽ち犠牲とならざらしめんとするは、眞に現社會制度の偉大變動ならずんばあらず。貧民階級の生活状態は未だ嘗て第十九世紀に於けるが如く討究調査せられたることあらず。輿論が貧民階級のことを眼目としこれが地位改善の爲めに當れる

こと今日の如く眞面目なるは未だ嘗てこれあらざる現象なり。よし嘗て小共和國に於て著しく民主的組織を施ける例はこれなきにあらざれども、貧民階級の政治的の勢力及びその權力が今日の如く顯著なりし場合は又これあらざるなり。それ然りと雖も凡そ此の如き改善を以て現社會の不祥状態が抑止せらるべきかは則ち上來陳述したる諸制度及び精神的運動より必らずしも期す可らず。これと同時に如何なる國民の場合たるに論なく、人口は果して如何なる率を以て増加するか、増加人口は故國に於て若しくは殖民地に在りて外國市場を目標とせる生産労働に従事し毫も失職の憂なきか、技術的進歩能く停滯せず經濟的生存益容易なるか、殊に又個々國家の權力は國際社會場裡に隆興せるか若しくは衰退せるか、國家組織上の變動改善に失敗の跡なきか、國內競争の爲めに國土痺弊し依て衰亡し若しくは外國侵略者の犠牲に陥れるか、社會的調停作用に失敗なきか、大政治家及び大政黨首領現はれ、乃ち時代の劇烈闘争を鎮撫し仲裁し緩和し而して社會的調停の實を擧ぐるものあるかを重大問題となす。

(口)論じてこゝに至りて吾人は先きに掲げたる第二の問題即ち換言すれば現在

の社會的確執及び競争は將來果して如何なる状態を呈せんかの問題を討尋せざる可らず。この問題に對する確答は個々國土に就ても現今の總文明世界に關しても與ふ可らず。たゞ多少の蓋然は斷言し能はざるにあらず、主として賤民將た社會共和黨と富豪階級殊に企業家、さては現政府との競争に關し、少なくともその最近將來數十年間の行程に關しては則ち返答し能はざるにあらざるなり。現社會には尙ほ異様の思潮あり、即ち以て社會共和黨の成立を以てたゞ單に社會の不幸、秩序の混亂となし、その或は社會を支配するに至らば一切の高尙なる文明は終りを告げ社會は野蠻状態に逆轉すべしと認めんとす。この種の思潮の欲する所は、寧ろ單兵急に社會共和黨、その印刷物及び組織を暴力を以て壓し、一般投票權を撤し、*ディクタトル*、大資本家及び大地主の政策を以て國家社會を統治せんとするに在り。苟くも労働者の蠻的革命は獨逸に於ても獨逸以外に於てもかゝる反動を生ぜざるを保せず。然れどもこの反動も亦現國民經濟の盛運を撲滅するの危険あり。一般教育義務及び一般兵役義務を實施せる國家に於て、殆んど四十年代に一般投票權を實施したる國家に於て此の如き反動

政策は賤民労働者階級の挑戰的革命なき限り、輕卒にして且つ誤りたる實驗なるべし。労働者の總ての政治上及び職業上の組織を以て社會進歩の患害と認むるが如きは、是れ下層より勃興し向上する所の階級―これを先きにしては手工親方これを後にしては手工職人―がかゝる組織を俟て始めて合理化せられ教育せられ得ること、かゝる組織の發達に依て始めてその服従すべき首領を得て國家權力及び爾他階級とよし今日未だ直に期す可らざるも將來に於ては則ち協定を遂ぐるを得べきことを知らざるの謬見なり。吾人の採り得べき途たゞ二つあるのみ。その一、左して全労働者社會を再び奴隸及び隷屬民に引き下げその政治上の權利を褫奪すべきか―これ抑不可能なり。若しくはその二、右して労働者をも同一權利を有する國民と認め、精神上及び技術上にこれを教育し、これが結合組織を認容し、その利益を保證せんが爲めに労働者に自由活動の勢力を與ふべきか是れなり。それに就ても吾人の忘る可らざるは、労働者のこの組織の發達ありて始めて政府及び富豪階級をして強くその社會的義務に反省せしめ、且つ又眞面目なる社會改良に着手せらるゝこと是れなり。蓋し權利競争劇甚な

る現社會に科學、教會、人類主義の高尙なる聲はそれ自體にては餘りに薄弱なり。勞働者階級それ自身の自覺的組織は、人類が未曾有の文明段階即ち換言すれば最早貧民階級をして富豪階級の爲めに受動的立脚底たらしめず社會總組織の自覺的自動的階級たらしめんと欲し、且つ然かせしむること可能なる文明段階に到底したる世界史的事實の表示なり。

幸に反動思潮は益々稀有の現象となり、革命黨、賤民徒黨及びこれに類似する暴徒に對し苟くも假さざらんとするが如き憤怒の聲を聞くこと愈々稀少となれり。「ビスマルク」の如き大政治家及び凡そ冷靜なる觀察者は、既に社會共和黨の要求する所がその中心に於て正當理由を含めることを唱へたり。獨逸以外の諸國殊にその國家制度上著しく民制化の實を示せるものは既に業に勞働者組織と調停せんとし勞働者代議士を議會に入らしめたり。

獨逸に對しこれと同一要求をなせるもの、一部分は、今日既に社會共和黨内部に起れる變動を基礎としてその將來良果を豫言し得べしと信ぜり。然り社會共和黨首領の確信は千八百四十八年の共產主義的宣言以來明かに變調し、社會

共和黨それ自體も亦既に曩時に比して面目を革め頓に緩和したり。社會共和黨は獨逸に於て千八百九十一年外觀上には全然「マルクス」の原理を認められたれども、而かも「エンゲルス」以來(千八百九十五年)は暴戾なる革命思想を撤回したり。科學教育を備ふる首領は、彼の民衆沈淪の説、社會主義的恐慌論、資本大集中論を多少打ち捨てたり。「マルクス」の第三卷(千八百九十四年)は彼の過利價值説を思想幻像と認めしむるに大に與て力あり。執拗なる政權競争換言すれば差當り議會及び市町村會に多數投票權を獲得せんとするの競争は、それ自體嚴密なる意味に於て既に革命に對するの斷念なり、現今國家の法律的基底に踏み入れることを證明せるものなり。

然りと雖も凡そ此の如き變造過程はその進むこと極めて徐々たらざる能はず。差當りは尙ほ舊來の極端なる激情的首領ありて民衆を支配し、これを煽動して革命を起し現社會秩序を撲滅せんとし、よし首領自らは暴動の結果が従らに反動の口實となり勞働者の沈淪と危険と爲めに益々擴延せんことを察せざるにあらず、勞働者が今日自ら生産監理に當るの能力あらざること知らざるにあらず

るも——差當り試みる所は則ち暴力手段なり。極端なる急進的運動の危険實にここに存せり。急進運動の赴く所は「ペーベル」及び「ジッゲル」の如きも尙ほ之を制すること能はずして更に急進的なる黨員の左右する所とならざるかは豫じめ測り知る可らざるなり。この故に革命及び流血現象は全然艾除す可らず——殊に一旦の場合に際し政府の首腦たるものが斷然たる處置に出づること能はざる時を以て然りとす、然れどもかゝる革命も、若し暴力的壓迫政策を捨て、確實に社會平和を保持し、直接に社會共和黨に干與することなくして能く經濟上精神上及び道徳上に労働者階級を向上せしめ、社會共和黨内の合理的政治家を助けて潜主を壓し共和黨を率ゐしむることを得ば則ち避くること能はざるにあらず。果して此の如くなるを得ば爾他一切階級及び國家權威に對する盲目的憎惡感情も亦漸次に緩和すべく、現には尙ほ社會共和黨を支配せる誤りたる政治的理想も亦著しく變じ、乃ち労働者は爾他階級及び政府と實際に協働することを得るに至るべし。

もとより一切の労働者と言ふにあらずたゞその極端なる急進主義者の政治及

び政策が基礎とする所は、歴史上幾多の類例にこれを徴すべきが如く、その思索及び行爲が悟性よりは寧ろ情緒により實際知識よりは寧ろ合理主義に依りて左右せらるゝの心理學的事實なり。凡そ極端なる急進黨は幼稚なり(Rohmer-Plum-schitz)。彼等は自黨を善と信じ爾他一切の黨派及び階級を惡と認む「嘗て「アプト」が自由黨のみを善と信じ、而して反對に「シッタール」も亦保守黨獨り神の秩序に支持せられたるものと認めたるが如し。労働者は差當り富豪階級將た政府を内的に理解するの能力あらず。將來賤民が社會を支配するに至るべきを煽動せられ且つ空望して、凡そ如何なる黨派にても階級にても暴力的革命に訴ふることを欲しくは概して持續的にその目的を達せんが爲めには、必らずやその目的を達せられべき一定限度に制限せざる可らず——而してこの制限せられたる競争は國家及び社會生活の爾他一切領域及び制度をさながらにそれぞれ神の平和攝理の一方面と認めざる可らざることを理解すること能はず。苟くも高尚なる文明段階が諸不平等制度の混融及び調停を基礎とせること——詳言すれば民主的及び貴族的制度、共和制的及び君主制的制度の調和を基礎とするの歴史的事實は勞

働者の未だ理解せざる所なり。現代の民主的特色それ自體は毫も不都合なけれども、労働者はこれを極端化し數千年の昔の状態に逆轉せしめ、極端に急進的民主政を實現せんとす——これに至りてそれ自體に妥當なるもの誇張せられて危険となれり。尙ほこれに就ては少しく陳述する所あるべし。

民主的平等思想は基督教の始めて唱導したる所、其後第十八世紀の啓蒙時代に依りて更に強固にせられたるが、之に影響せられ諸國は始めて貴族國家及び特權國家を撤し、法律及び租税を平等にし、帝國議會に、自治體議會に代議制に依りて國民を參加せしめたり。英蘭、佛蘭西、獨逸及び其他國土に於ける國會及び市町村會の投票權擴張は見地に依りては誤謬政策若しくは尙早計畫と認むるを得べきも、原理上には苟くも歴史に通曉せる者の全く非難し去ると能はざる所のものなり。これ吾人をして徒黨及び暴動突發を防止せしめ、全國民を政治的に教育し、舊來の階級濫用に階らざらしめんが爲めに必要にして有效なりき。然れどもこの大體に於て妥當なる傾向を實際如何なる範圍まで實施せば果して機宜に適せるかはそれぞれ國狀に従てもとより一ならず。必らずや貧民

階級の教育程度、富豪階級の給付、強固なる政府の種々の欲望に順應せざる可らずとす。

殊にこれに注意せざる可らざるは、或る極端なる民主的制度は小共同團體若しくはカントン(州)に適用して健全に、大國家に實施しては則ち有害なることは是れなり。この故に既に「オーウェン」及び「フーリエ」の如きが希望したりしが如く、多くの急進主義者が一切の大國家制を撤しこれに代ふるに州國家及び小國家若しくは更に極端に走りて小共同團體を以てせんと欲するは論理上矛盾あらず。たゞこれに不可なるはこの輩がその計畫を以て凡そ高尚なる文明と國民的獨立とを失ふべきことに思ひ至らざりしことなり。大國家組織に依らんと欲するの社會主義者は、その大國家成立の前立條件に關し、大國家を脅迫する所の國際的權力競争に關し、その前提とする內的權力組織に關し概して全然思ひ到らず若しくはこれに思ひ到るもその寫象全く朦朧たり。彼等はこれに就き五十人乃至百人より成る労働者組合の組織を以て不都合なかるべしと信ぜり。全國民に問て行ふの直接立法(強制的な一般票決)、代議士に對しその専門知識及び確信を捨

て、選舉人の時々願望に従て票決すべきの斷言的委任、一院組織、年々改選、一切選舉を通じての絶對的頭數組織、全國民に問て決するの宣戰構和—これ國民主權説を基礎とし、政府及び議會の大決裁權を一般民衆及びその情調と激情との上に移し置かんと欲する極端なる民主的要求なり。これ抑謬見より出發し貧民階級を以て常に智慧と道德とを備ふるものとなしその投票總體が即ち最高洞察力を表示せるものと認むるの論なり。然り而して凡そ多數決が常に悟性及び専門知識に依れるよりは寧ろ感情及び激情に依て支配せらるゝこと、優劣諸階級より成れる社會の總投票の和は常に一切投票人に共通の幼稚なる欲望僻見及び思想を内容とする結果を生ずること、思想及び人格の點に於て最も秀でたる者の場合を察するも、それが多數會合し興奮して投票裁決に當るに準じ悟性力益遞減するを免れざること—凡そこれ等の重大事項に就ては全然顧られざるなり。この故に古來凡そ大文明國家にありては、究竟の大裁決は一人に委せられ、爾他の裁決は五人乃至十人の少數關係に、又其他の裁決は二百人乃至六百人の元老院及び議會に委せらる。全國民に問て國政を行はんとするの計畫は

古代共和國を滅亡せしめたり。爾來幾變遷政治上に著大進歩あり、政治は大匠及び議會に依て執行せらるゝに至りたるが、一旦上陳の民主的要求を容るれば則ちこれが覆沒に至るべし。

而して一切官吏及び裁判官の年々選舉將た現軍隊の撤廢に就ても亦同斷なり。急進主義は官吏及び裁判官の年々選舉を要求して以て現國家權力の確固たる組織を滅せんと欲す。然れどもこれが結果は單にそれのみにあらず、數百年來の法律發展、獨立確固たる専門政治家の國務執掌、さては幾代間徐々として巧妙なる發達を遂げ現に人口稠密なる國土に於て國民經濟存立の基礎ともなれる行政組織も亦これに依て失はる。乃ち急進主義はこの要求を以て確固たる秩序に代ふるに無政府状態を以てし、賄賂を以て左右せらるゝ獵官者流に國事を委し、國務を不安極りなき營利業とし、遺憾ながら既に現に民政的議會—政治的國家を通じて殊に甚しき悖德現象をそれにも増して市町村及び國家に惹き起さんとす。軍制の基礎を短期の一般兵役義務の上に置くは疑もなく正當なる民主的要求なり。然れどもその能く良果を收め得べきはこれと同時に専門軍人及び下士官の

貴族的制度を施行する場合に限れり。

されば最近時代の合理的社會主義及び急進主義——例へば英蘭のフアン組合員の如きは既に此等一切の民主的要求を無政府的及び悖理的と宣したり。英蘭の職工組合界は四十年以來益々勞働者貴族及び勞働者官僚をしてその事務を執掌せしむるに至れり(本譯補の第七冊 **二百二十六** 參照)。獨逸にありても亦これと同様の變動實際上に愈著しく、社會共和黨内に於て首領の權力及び權威は日々に増大せり。權威に對する信仰の必要が社會共和黨に於けるが如く強烈なるは未だ嘗てこれあらず。既に社會共和黨には死せる首領に對する禮拜のことあり。然れどもこの變遷は徐々たる推移過程を問題とし、政治教育を本義とし乃ちなるべく勞働者を促進してその自治を發達せしめ而して徒らに勞働者を拒斥するが如きことある可らざるを重要となす。

現今國家の重要な問題はあらゆる關係上に勞働者を正當に愛憎なく取扱ひ、彼等をしてその信仰の犠牲となりその首領に反逆し、その現に享受せる權利を斷念せしむるが如きことある可らず。あらゆる煽動に際し貧民階級に免かる可

らざる暴戾若しくは不當なるありとあらゆる騷擾に當りて能く靜謐を守り杞憂若しくは激情の犠牲とならしむ可らざるなり。この故に殊に官廳及び裁判所に注意し、知らず識らずの間に企業家及び富豪に偏黨するが如き怪事あらしむ可らず。かゝる行政を施す三十年、乃ち能く社會問題の大部分を解決し得べきこと疑を容れず。

然り而して政治組織及び經濟組織上の大問題に重要なは、勞働に對する讓歩と現財產現國家組織將た文明發展國家的大傳説の權威又獨逸帝國の基礎たる權力組織との間に正當なる中道を失はざることなり。能くこの中道を誤らざれば、獨逸にありて爾他如何なる國土に於けるよりも容易に革命に陥ることなく徐々に改良進歩して以て調停の目的を果し得べし。西部歐羅巴及び北亞米利加合衆國に於ては政府の權力薄弱に從て人望ある政治家將た大統領がディクタートルの如き權力を行使する外如何ともする能はず。東部及び南部歐羅巴にありては勞働者階級尙ほ遙かに幼稚に、社會改良計畫甚しくユートピア的なり、民衆は尙ほ暴力及び革命を夢想せるの狀なり。故にこの方面には今日と雖も無政府

主義的虐殺現象珍しからず、暴動はこれ等地方に於ては寧ろ容易に鎮壓せられ而して社會改良を促かさざるなり。

もとより獨逸にありても亦恐らく劇烈なる競争を培せざる可らざるや既に述べたる所の如し、然れどもこの社會競争を法律の埒外に脱せしめず轉覆及び賤民支配に陥らしめざることは不可能にあらず、社會共和黨と雖も遂にはその政黨として單に總體の一部にして總體そのものにあらざること、若干の効果を以て満足せざる可らざること、獨逸に於て實に社會共和黨の外に向ほ更に強大なる權力ありて存することを朦朧ながら感知するに至らん。歴史生活上には如何なる運動にても(社會共和黨の運動も亦もとより)一旦高潮に達したる後は轉向すること、嘗て自由主義の然りしが如く社會共和黨も亦進んで強固なる君主政及び現國家の保守的権力と協定せざる可らざることを取せざる可らざらん。自由黨は千八百年乃至千八百七十五年の間は新進歩新運動を代表し屢政府と妥協したるが、其後自由黨の一部分は保守的となり他の部分は轉じて新運動黨となり社會主義的黨派となれり。この部分が引き續き獨逸に於て幾分にてても成果を

擧げんとせば、王權、官僚、教育ある社會の一部分をその味方となさざる可らず—而してこれが爲めにはその要求を緩和すること必要なり。

一般に保守的潮流、集中的潮流、國權擁護の潮流が概して相接近し恐らく最近將來を支配すべき場合に際して愈然り。セントの所謂反對の法則「ランケ」が所謂歴史上に於ける支配的精神潮流變換の説に顧みるも既にこのことを期待し得べく。具體的事實に徴するも亦豫測せられざるにあらず。國際的競争益劇甚を加へ、其結果として強固なる對外的國家政策は國內競争よりも更に必要事項となる、吾人が先きに主張したるが如く民政主義の國土に於ても偉人崇拜愈顯著なるものあり。現に北米合衆國及び大英國の企圖せる帝國主義政策は、嘗て「ディズレーリ」の然りしが如く今「チェンバレン」の自ら任ぜるが如き「シザイ」式の偉人を必要となす。「ロズベリ」及び「シドニウ」も今日に於ては自由社會主義的帝國主義を翳すに至れり。かゝる時代に國家社會の指揮に當るは議會にあらず黨派及び多數にあらず、實に國民及び議會を後楯とせる先覺政治家なるべし。英蘭も亦恐らく先きに「ボリングブローク」が「ホウ」黨政府の腐敗に對

して要求したる所を實現し黨派に超然たる王權を確立すべし。北米合衆國にありても苟くも民心を得且つ苟くも一度ならず選出せられたる大統領は「ディクタトール」として嘗て「チャクソン」及び「リンカーン」の效せる所にも劣らざる政治成績を擧げ得べし。

翻て獨逸を觀るに社會共和黨と雖も「ディクタトール」に依て始めて支配せられ得べし。「ラサール」は劍を楯とせる「プロイセン」の強王政を理想とし、而して所謂資本家と王政との究意的大競争に當りては王政に左祖すべきとを「ベルリン」市民に宣誓せり。ホーヘンツォルレルン家の大偉業は尙ほ未だ消滅せず。農民及び市民を庇護せる第十八世紀の諸王、「シヨレンブルグ」、「アルヴェンスレーベン」、「ビスマルク」の古疆域貴族を難じて最も權勢あり而かも人民に對し最も暴虐なる臣僚なりと言へる「フリードリッヒ・ヴィルヘルム」二世、さては全歐羅巴に君主政の新理想、國家の忠僕てふ新理想を提唱したる古「フリードリッヒ」王は今尙ほ國民の腦裡に忘れられざる所なり。「ビスマルク」及び「ヴィルヘルム」皇帝は「フリードリッヒ」王の政治を復活し、依て以て君主政を新たに確立したり。「シュタイン」、「グナイスト」、「トラ

イチケ及び其他學者の唱へたる社會的王政の職分に關する論は——その社會主義とあらゆる調停あるにも拘らず深く緣由する所あり。凡そ獨逸の大制度、即ち憲法、軍隊、官僚、農民保護等は抑君主政の傳説に基けるもの。而して近時屢々君主政的官僚的傳説が社會改良と矛盾し斷然大地主及び大資本家と妥協せるが如き觀を呈するもの、是れその内的確信よりは寧ろ帝國議會及び聯邦議會に於ける憲法上の多數決より生ぜる結果なり、而して又社會共和黨が今日に至るまで聯邦及び帝國の權力關係に繋かれる特殊の國民的要求を全然無視したるの結果ならずばあらず。

この状態は變動し得べからざるものにあらず、獨逸に於ける君主政と勞働者社會との將來結合——よし最近將來に期す可らざらんも——を拒斥するものにあらざるなり。否今日既に吾人は下の如く斷定するも亦不可なからん。曰、君主政府その諸機關及び勞働者社會は獨逸に於て最も活潑なる政治上の活力たり、これに對すれば舊黨派及び爾他階級は恐らく多數なるべきも而かも國家生活上に飽暖爲すなき要素なりと。然り而して苟くも一國家の裡にこの最も強大なる二

権力が存立すべきを信ずるものは下の如く豫言して誤なからん。曰、嘗て「シユタイン」ハルデンベルグ時代及び千八百四十八年乃至五十年の間、千八百五十九年乃至六十二年の間、千八百六十七年乃至七十五年の間に自由主義が獨逸の官僚國家と協力して社會改良のことに當りしが如く、將來は則ち社會主義のこの協働を観るべしと。果して然らば將來獨逸の國民經濟は社會改良を本義とし労働者の利害を基礎として著大の變動を來すべく。全國民經濟に對する集中的監理の促進は以て獨逸の銀行貴族及びカルテル貴族そのものを驅逐し而して國權を伸張すべし。社會共和黨も亦その經濟上及び政治上のユートピアを斷念し、并に市民的民主制も大體に於て其架空計畫を打ち捨てざる可らず。さればとて社會共和黨の精神は失はるゝにあらず。否恐らく根本的醱酵素として變動過程に與かり影響すべし。その混融の結果は少なくとも嘗て基督教徒の賤民學說が數世紀の努力を経て後遂に羅馬皇帝の帝位に内的に實現せられたるが如き意味に於て認識することを得べし。

かくの如くして同一國家内に對立せる諸強大政治的勢力は遂には必らず融和

協働點を發見すてふ一般的歴史法則の實現を観るべく、而して以てプロイセン國は最も強固なる君主組織及び君主行政なるが故に社會的改良をも最も大膽に實行し能ふべしてふ、ウイルヘルム二世皇帝統治劈頭の宣言も亦こゝに眞理となるべし。

第四卷 前冊畢

大正五年九月一日印刷
大正五年九月三日發行

(レヌモラー國民經濟學原論第八冊)

定價金壹圓四拾錢

著作
所有

譯補者 山田伊三郎

發行者 東京市神田區裏神保町九番地
合資會社 富山房

代表者 同所 合資會社富山房社長
坂本嘉治馬

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
高木西三

印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
秀英舍第一工場

發行所

(明治二十九年
六月設立)

東京 合資會社 富山房
神田

電話本局一〇三六、四一三〇番
振替口座東京五〇一三〇番

336
201

終